

「まちの駅 長岡大学」の活性化へ向けて

～「まちの駅」の現状と課題、提言～

鯉江康正ゼミナール

05B008 梅津亮

05B012 大平悠史

05B063 目黒加寿也

05B064 柳下直人

05B069 吉田泰葉

目次

はじめに（執筆：吉田泰葉、柳下直人、目黒加寿也）

第1章 「まちの駅」の歴史と概要（執筆：大平悠史、梅津 亮）

- 1.1 「まちの駅」の歴史
- 1.2 「まちの駅」の概要

第2章 長岡市における「まちの駅」の紹介

- 2.1 長岡市の「まちの駅」の概要（執筆：吉田泰葉）
- 2.2 「まちの駅」の取組紹介（ヒアリング結果）
 - 2.2.1 「ながおかまちの駅」（ながおか市民センター）（執筆：吉田泰葉）
 - 2.2.2 栃尾地域「まちの駅」めぐり（執筆：柳下直人）
 - 2.2.3 「まちの駅 寺泊」（寺泊観光協会）（執筆：柳下直人、吉田泰葉）
 - 2.2.4 「おみそ屋の駅」（早川商店）（執筆：目黒加寿也）
 - 2.2.5 「まちの駅 扇屋」（執筆：吉田泰葉）
 - 2.2.6 「まちの駅 もてなし家」（道の駅良寛の里わしま内）（執筆：吉田泰葉）
 - 2.2.7 寺泊・和島地域を見学して＜所感＞柳下、目黒、吉田＞
 - 2.2.8 「越後長岡 酒と味の駅」（肴佐田酒店）（執筆：吉田泰葉）
 - 2.2.9 「まちの駅 長岡大学」（執筆：柳下直人）

第3章 まちの駅の現状と課題、および活性化への提言

- 3.1 「まちの駅」へのヒアリング所感
（執筆：吉田泰葉、大平悠史、目黒加寿也、梅津 亮、柳下直人）
- 3.2 長岡市の「まちの駅」の活性化に向けて
（執筆：吉田泰葉、柳下直人、目黒加寿也）
- 3.3 「まちの駅 長岡大学」の活性化へ向けて
（執筆：目黒加寿也、柳下直人、吉田泰葉）

謝辞

参考資料 長岡市における「まちの駅」実験参加施設一覧（担当：吉田泰葉）

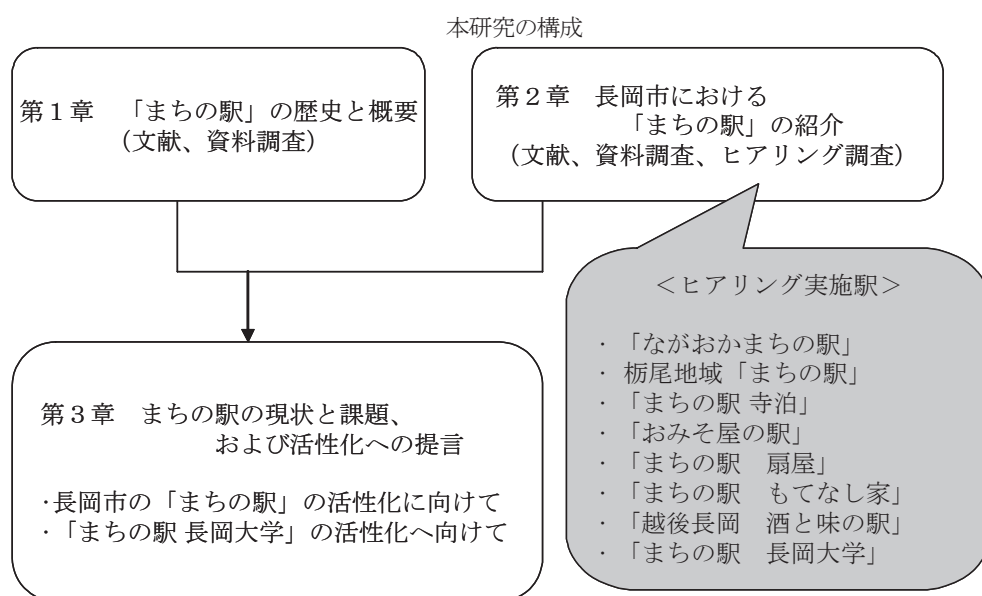
はじめに

長岡市内には30箇所の「まちの駅」がある。そこに長岡大学も参加している。しかし学生のほとんどがその活動を知らない。

長岡市では、合併後新たに作成した「長岡市総合計画（平成19年3月）（註1）」で、多様な地域交流の推進をめざすとしている。地域間交流および地域内交流の拠点として、ながおか市民センターを「まちの駅」に位置づけている。そして、今後、「海」や「農」など地域資源を活用したさまざまなタイプの「まちの駅」を展開し、地域の情報を発信する交流拠点づくりを推進するとしている。また、民間事業者が設置する「まちの駅」を含め、市内全域の「まちの駅」のネットワークを構築し、長岡市の新しい魅力を発信するため、全国各地の「まちの駅」との情報交換や連携を進めるとしている。

地域の時代と言われて久しいが、地域活性化はなかなか進んでいないのが実態である。長岡市も人口は減少局面に入り、中心市街地は衰退し、周辺地域では高齢化が進んでいる。そのようななか、どのようにしたら、地域を活性化できるかを検討するため、「まちの駅」を利用した地域の活性化について検討することにした。

本研究は、第1章で「まちの駅」の現状を知ることから始まり、第2章では長岡市における「まちの駅」へのヒアリングを実際に行い、第3章で「まちの駅」の活性化と「まちの駅 長岡大学」の活性化について提言するという構成になっている。



なお、本調査・研究は、「平成19年度 現代的教育ニーズ支援プログラム（地域活性化への貢献—地元型—）」による補助金を受けた『学生による地域活性化提案プログラム—政策対応型専門人材の育成—』の取組として行ったものである。

（註1）長岡市「長岡市総合計画（基本構想、前期基本計画）」平成19年3月

第1章 「まちの駅」の歴史と概要

1.1 「まちの駅」の歴史（註1）

「まちの駅」のお手本に、「道の駅」がある。「道の駅」は一般国道脇につくられた駐車場、トイレ付きの休憩施設で、「休憩機能」「情報交流機能」「地域の連携機能」の3つの機能をあわせもった施設である。平成2年に広島で開催された「中国地域まちづくり交流会」のシンポジウムでの参加者の発言、『不思議なのですが、JRには駅があるのに、なぜ道路には駅がないんでしょう。道路地図にはJRの駅は載っています。家族でドライブしていても、家内は1～2時間しますとトイレのことが気にかかるようです。すると、道路地図を見て、JRの駅を探すことになります。各市町村に1つぐらい、そういう施設がどこにあるのか道路地図に載せてみてはどうでしょうか』を受けて、平成3年に地域交流センターが社会実験を行い、この成果をもとに平成5年に制度化された。

現在「道の駅」はドライバーの休憩拠点、観光情報の発信基地、地域おこし等で注目され、設置数は868カ所（平成19年8月現在）にのぼる。いまや「道の駅」は国民に指示されるインフラへと成長を遂げた。

一方で、地域との関わりや、駅どうし・地域間のネットワークといったソフト面での工夫はなかなか進んでいないのが現状である。この駅や地域、“人のつながり”の機能を強化していくために生まれたのが「まちの駅」である。

「道の駅」「まちの駅」の検討経過は図表1-1のとおりである。

図表1-1 「道の駅」「まちの駅」検討経過年表

年 月	動 き
平成2年1月	中国地域まちづくり交流会で、「道の駅」の提案がなされる
平成3年10月 ～平成4年4月	中国・中部・関東の3地域で、道の駅社会実験開始
平成5年2月	建設省道路局により、道の駅制度化
平成10年3月	全国総合開発計画の4つの戦略のひとつに「地域連携軸の展開」があげられる
平成10年3月	中部西関東・北東北地域を皮切りに「連携センター（まちの駅の前身）」の提案・社会実験開始
平成11年1月	2700通の応募から、「連携センター」→「まちの駅」に名称確定
平成11年5月	570点の応募から、「まちの駅」シンボルマーク決定
平成11年5月～現在	各地域で「まちの駅」の社会実験や連携強化キャンペーンを実施。平成19年10月現在の参加施設は1500を超える
平成12年8月	「まちの駅」の全国ネットワーク「まちの駅連絡協議会」正式発足
平成16年7月	「海の駅」発掘イベント「日本ぐるっと一周・海交流」完了
平成17年11月	「健康の駅推進機構」発足
平成18年9月～	海の駅、川の駅、健康の駅、学びの駅等、テーマ性の高い拠点連携の展開と組織化

資料) まちの駅連絡協議会「まちの駅全国大会 in 上野」配付資料『まちの駅の歴史』より。

1.2 「まちの駅」の概要

(1) まちの駅のコネプト（註2）

まちの駅をひとこととていうと「公共施設からまちかどのお店まで、既存の施設・空間に設置できる、人と人の出会いと交流をサポートする、まちの情報発信拠点」である。そのコンセプトは、「ひと・テーマ・まちをつなぐ拠点」であり、具体的には次の4つの面を持っている。

- 人と人の出会いと交流を促進するヒューマンステーション

「まちの駅」とは、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を持つものである。人と人をつなぐ場であるということから、ヒューマンステーションと呼ぶことができる。

- まちの窓口、サロン機能などの機能を有する空間

機能は、①まちの窓口としての案内機能（窓口機能）、②人の交流を促進する交流機能（サロン機能）

等を持ったものである。そして、何よりも重要なことは、その拠点が何らかのテーマを持っており、オープンな空間であるということである。

○ まちづくりテーマをつなぐ、テーマステーション

それぞれの「まちの駅」には活動テーマがあり、そのテーマを連携させることで、豊かなまちづくりに貢献することができる。人々が運営する諸施設のテーマには、福祉、医療、アート、教育、スポーツ、観光、農業、海など、様々なものがある。

「道の駅」はドライバーの休憩拠点というのが大きなテーマであり、「道の駅」も、「まちの駅」のひとつと考えることができる。「まちの駅」は、テーマとテーマをつなぐ場であるということから、テーマステーションと呼ぶことができる。

○ 行政・民間を問わない設置・運営形態

「まちの駅」は主に、既存施設を活用して設置することを想定しており、その設置・運営主体は行政・民間を問わない。民間版の「まちの駅」にこそ自由な工夫が許されるといえる。

これらを、簡単に言えば、「まちの駅の機能（註3）」は、次の4機能に集約される。

- ① 休憩機能：誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能
- ② 案内機能：「まちの案内人」が、地域の情報について丁寧に教える機能
- ③ 交流機能：地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする機能
- ④ 関係機能：まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域づくりをする機能

(2) まちの駅のタイプ（註2）

「まちの駅」は大きく、3タイプに分けられ、これらが連携することによって、様々な効果が生まれる。

○ Aタイプ：総合タイプ

まちの情報案内、様々な活動の様子がうかがえる、まちの総合情報交流拠点タイプの「まちの駅」。その例としては、道の駅／情報センター／観光案内所／役場・役所・公民館などがある（註4）。

○ Bタイプ：テーマタイプ

ある特定目的やテーマのある施設に、情報提供スペースと交流空間をプラスしたタイプの「まちの駅」。その例としては、体験工房／音楽サロン／博物館／美術館／昆虫館／ショールーム／酒蔵／キャンプ場／温泉／ビジターセンター（環境庁）／各種スポーツ施設などがある。

○ Cタイプ：特殊タイプ

特殊な機能・性格を持つ施設に、情報提供スペースと交流空間をプラスしたタイプの「まちの駅」。その例として、福祉施設／病院（健康の駅）／警察署／大学・学校／郵便局／国営公園などがある。

(3) まちの駅の連携効果（註3）

規模や立地・形態も多種多様なタイプの施設やその関係者が、「まちを元気にしたい」という共通の思いで取り組むことによって、地域内外のネットワークが広がり、まちの駅の連携効果が期待できる（図表1-2参照）。

連携の形態は、大きく分けて「地域内・隣接地域」「近隣地域」「遠隔地域」との連携が考えられるが、これら3つの連携に共通する効果の特長は以下のものが考えられる。

- ① 規模や立地、運営形態が多種多様な施設・関係者のまちづくり意識を高めることができる
- ② 多種多様な施設・関係者をネットワークさせ、日常的な連絡・協力体制をつくることできる
- ③ 今までにない組合せや関係性を持続させることで、地域の活性化につなげることができる

具体的な連携事例としては、次のようなものがある。

○ 地域内・隣接地域連携

<あまぎあさくらまちの駅>

福岡県甘木市と周辺4市町村のまちの駅59カ所の商店・施設がネットワークを構築している。黄色いのはりとプリンター付き木製看板を作成し、毎週各駅からの情報を収集・加工し、HPや各駅の掲示板等で「特ダネ情報」として紹介しているほか、駅どうしの研修・交流の場として駅長会議を開催している。キーステーションは甘木朝倉観光協会（「ほとめきの駅」）である。

<ばとうまちの驛>

栃木県那須郡那珂川町（旧・馬頭町）では、観光スポットとなっている美術館や窯元、神社・仏閣など18カ所が参加してネットワークをつくっている。ゴールデンウィークの1週間「花の風まつり」というイベントを実施。観光協会が取りまとめをして、マップの作成・配付をしている。何度も会議をしている訳ではなく、やりたい人が思い思いの接待を楽しむというスタイルで取り組まれている。

○ 近隣地域との連携

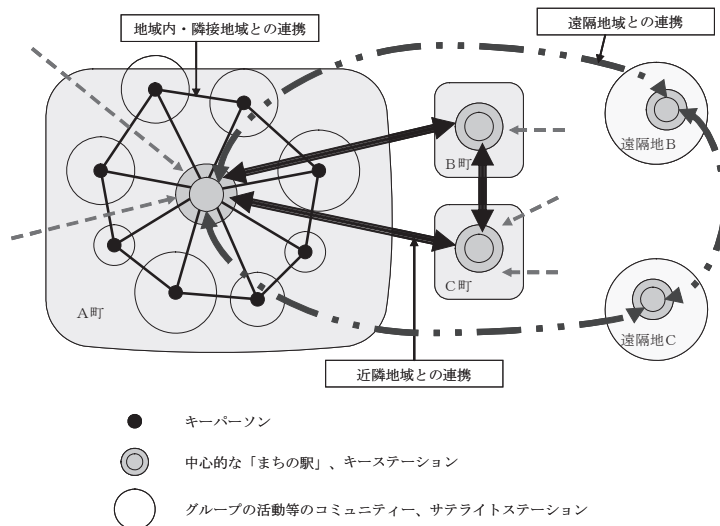
<にいがた・ぐんま まちの駅>

新潟県・群馬県の国道17号・353号沿線、信濃川沿川を含む9市町村が県境を超えたネットワークを形成している。群馬県の「白井宿の駅」では大鍋「山海汁」の企画を毎年2月に実施。新潟県「ながおかまちの駅」では「もてなし研修」を開催。また、2004年中越大地震の際には緊急企画「心のくつした便」を実施。

<会津 まちの駅>

福島県会津地域では、20市町村の市町村・NPO、団体等が参加し、「会津まちの駅連絡協議会」を発足した。オリジナルキャラクターの公募やWeb運営、定期的な研修・会議の開催のほか、スタンプラリー等のイベントも部会ごとに行われている。

図表 1-2 連携・協力のイメージ



○ 遠隔地域との連携

<まちの駅連携物産展の開催>

東京都町田市のまちの駅で、全国のまちの駅から物産を集めたイベント「これぞ市場・ん in 町田」を実施。このイベントは、中越大地震の際に全国から寄せられた応援へのお返しとして、「ながおか市民センター」「ネーブルみつけ」をはじめとした新潟の方々・栃木県と福岡県のまちの駅が企画したものである。ボランティアで新潟に駆け付けた方、ミュージシャン、防災の専門家、地元・町田の方等の協力も得、盛大なイベントとなった。

「ネーブルみつけ」では常設の物産交流コーナーを設置。全国のまちの駅の物産を定期的に入れ替えて紹介している。反対に、見附の産業であるニットの展示即売会を、富山県の「まちの駅たかおか」「まちの駅ひみ」等でも開催している。

<福岡からいっぱい元気>

「ばとうまちの驛」に参加している「もうひとつの美術館」と、「あまぎあさくらまちの駅」に参加している「共星の里」は、同じ「アート」の駅という駅名であり、さらに、知的なハンディキャップを持つ人たちのアートを中心に活動を行っている点、旧小学校舎を活用している点が共通であり、交流が始まり、コラボレーションによる企画展が実現した。

(4) まちの駅になる、まちの駅へ行くメリット

まちの駅は皆（来訪者、施設関係者、自治体）が笑顔になるツールである。本章の最後に、各主体ごとのメリットを整理しておく。

<来訪者のメリット>

- 気兼ねなく施設に入りトイレ・休憩ができる
- 楽しい会話ができる
- 地域密着の情報が得られる
- 地域づくりに関わるきっかけになる
- まちの駅を巡り楽しめる

さらに、今後展開を検討しているサービスとして、以下のものがある。

- まちの駅の連携によって他地域の情報や物産が手にはいる
- いざという時にかけこめる（防災・防犯）
- 健康診断や簡易診断が受けられる（健康の駅）

<施設関係者のメリット>

- 人が訪ねてくるので活気が出る
- 商品を購入してもらえるチャンスが広がる
- 他施設と連携し新しいイベントや品揃えのチャンスが広がる
- 地域づくりの様々な情報を入手できる
- 地域へ貢献し社会的に評価される
- 新聞等のメディアへの露出が高まる

<自治体のメリット>

- 住民との協働の具体的なモデルであり時代のニーズに応える
- 公的機能を民間施設が担うため自治体の負担が軽微
- 既存施設活用が前提のため、初期投資が軽微
- 公共施設の活性化や有効利用にも寄与
- 連携イベント等を通じ他市町村との交流が深まる
- 他地域の様々なまちづくりの情報を入手できる
- 複数箇所で行き交うことで回遊性が高まり、地域活性化に寄与する

(注1) まちの駅連絡協議会「まちの駅全国大会 in 上野」（2007年10月6日、7日）配付資料『まちの駅の歴史』より。

(注2) まちの駅連絡協議会「まちの駅全国大会 in 上野」（2007年10月6日、7日）配付資料『まちの駅のコネクトから設置方法まで』より。

(注3) まちの駅連絡協議会「まちの駅（2006年全国共通簡略版）」より。

(注4) 「まちの駅連絡協議会」の資料（注2）では、このタイプの設置例の第1番目に「ながおか市民センター」があげられている。また、注1及び注2にあげた資料の中には、設置例や取組例として長岡市や見附市の例が多く紹介されており、この地域は「まちの駅」では先進地域となっている。

(注5) まちの駅連絡協議会「まちの駅全国大会 in 上野」（2007年10月6日、7日）配付資料『まちの駅へようこそ』より。

第2章 長岡市における「まちの駅」の紹介

2.1 長岡市の「まちの駅」の概要

現在、長岡市には、2つのまちの駅（「ながおか市民センター」と「あぐらって長岡」）がある。それ以外に実験施設として、28の施設が登録されている（註）。

図表2-1は、長岡の「まちの駅」の一覧をまとめたものである。詳細については、参考資料を参照されたい。

（註）現在は、実験中だった28施設も認証（H19.11.1登録）を受け、長岡市は30駅が正式なまちの駅として登録されている。

図表2-1 長岡の「まちの駅」一覧（1）

名 称	住 所 ・ 連 絡 先 等	ひ と こ と
[長岡] ながおかまちの駅 【ながおか市民センター】	〒940-0062 長岡市大手通 2-2-6 ■Tel/0258-39-2763 ■Fax/0258-39-2765 ■http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/s-center/	
[長岡] 農の駅 あぐらって長岡 【ふるさと体験農業センター】	〒940-0821 長岡市栖吉町 3670 ■Tel/0258-34-5360 ■Fax/0258-34-5357 ■開業時間/8:30～17:00 ■お休み/月曜、年末年始 ■http://www.aglatte.net	市内2番目の「まちの駅」。市営スキー場の入り口にあり、農業体験や農産物加工体験をはじめ、様々な交流体験事業を行っています。
[長岡] あぶらうりの駅 【i-martSS 柏町】	〒940-0088 長岡市柏町 1-2-19 ■Tel・Fax/0258-32-4475 ■開業時間/7:30～19:30(月～金) 7:30～18:30(土) 8:00～17:00(日) ■お休み/1月1日、2日	車は安全運転・安全点検が基本です。オイルチェック・タイヤチェックはお任せください。車のこと、道案内、何でも聞いてください。『あぶらを売りに』寄ってください。みなさん待ってますよ～。
[長岡] ラジオの駅 【FMながおか】	〒940-0033 長岡市今朝白 1-8-18 長岡 DN ビル 1 階 ■Tel/0258-39-5500 Fax/0258-39-2868 ■開業時間/9:00～18:00(月～金) 10:00～16:00(土) ■お休み/日曜日	長岡地域のFM放送局として、行政・イベント情報の他、広域観光や歴史紹介も行っています。また、中越大震災の際は、被災者の立場に立った災害情報を提供し続けました。いつでも市民が顔を出せる「ラジオの駅」を目指します。
[長岡] 越後長岡 酒と味の駅 【(有)佐田酒店】	〒940-0067 長岡市関東町 1-6 ■Tel/0258-32-3517 Fax/0258-34-3617 ■開業時間/8:00～21:30 ■お休み/日曜日	山本五十六記念館、山本記念公園、河井継之助邸跡が近くにあります。皆様へ道案内できると思います。また、越後長岡の日本酒や調味料の話題など、お知らせいたします。
[長岡] 長岡駅前 越後の地酒駅 【(有)サトウ酒店】	〒940-0062 長岡市大手通 1-3-15 ■Tel/0258-32-0402 Fax/0258-32-0436 ■開業時間/9:00～20:00 ■お休み/不定休	ここ越後長岡は、17の酒蔵を持つ日本酒の街です。美味しいお酒や、文化、長岡の街のことなど、心を込めてご案内したいと思いますので、お気軽にお立ち寄りくださいませ。

図表 2-1 長岡の「まちの駅」一覧（2）

名 称	住 所 ・ 連 絡 先 等	ひ と こ と
[長岡] まちの駅 越後の米 穀商 高田屋 【(株)高田屋商店】	〒940-1106 長岡市宮内 2-8-32 ■Tel/050-3378-9343 Fax/0258-32-8008 ■開業時間/日の出から日の入りまで ■お休み/日曜、祝日	高田屋は長岡市で明治時代からつづく米穀商です。「安心して」「おいしく」をモットーに、質の高いお米の入手に力を入れております。お客様に喜んで召し上がっていただけるお米を厳選してお届けいたします。
[長岡] ONE LOVE 音楽の駅 【たつまき堂】	〒940-0071 長岡市表町 2-2-18 中央ビル 1F ■Tel ・ Fax/0258-31-4404 ■開業時間/12:00～21:00 ■お休み/元旦のみ	縫製工場をリノベーションしたセレクトショップ。店内にはアメリカ、ヨーロッパ、ジャマイカから買い付けてきた音・物・事がいっぱい。店主は生まれも育ちも長岡のレゲエ好きな食いしん坊。ローカルな遊びネタなら僕に聞いてください！
[長岡] まちの駅 おまつり 広場 【トーア(株)】	〒940-2101 長岡市寺島町 151-3 ■Tel/0258-28-1930 Fax/0258-21-3830 ■開業時間/9:00～19:00 ■お休み/元旦のみ	国道 8 号線寺島町交差点そば。神仏具、お香、ローソク、お祭り用品等、品揃え豊富です。史跡、名所案内や仏壇、墓石、霊園のご相談等、お気軽にお立ち寄りください。
[長岡] まちの駅 情報てん こもり 【長岡観光案内所】	〒940-0061 長岡市城内町 2-794-4 ■Tel ・ Fax/0258-36-3520 ■開業時間/9:30～18:30 ■お休み/年中無休	長岡駅 2 階改札口を出た正面に位置し、新長岡 10 地域の観光情報を旅行者や問い合わせに対して発信しています。長岡の旅の出发点としてぜひお立ち寄りください。
[長岡] まちの駅 長岡大学 【長岡大学】	〒940-0828 長岡市御山町 80-8 ■Tel/0258-39-1600 Fax/0258-33-8792 ■開業時間/9:00～16:30 ■お休み/土曜、日曜、祝日、入試日	長岡大学は市民の憩いの場、悠久山にあります。市民プールやお城の形の郷土資料館も近く、散歩の折にでもお立ち寄りください。2 階のロビーでの休憩や、図書館の利用も大歓迎です。
[長岡] まちの駅 セピア色 のまち撰田屋 星野 本店 【(株)星野本店】	〒940-1105 長岡市撰田屋 2-10-30 ■Tel/0258-33-1530 Fax/0258-35-8226 ■開業時間/8:30～17:00 ■お休み/第 2 ・ 第 4 土曜、日曜、祝日	弘化 3 年(1846)より、撰田屋に蔵を構える味噌・醤油醸造元。蔵の梁を再利用したテーブル・イスなど、休憩できる場所を用意しました。メーカーならではの逸品を取り揃えておりますので、隠れ家をさがす気分でお立ち寄りください。
[長岡] まめまめの駅 【吉田屋豆腐店】	〒940-0861 長岡市川崎町 2222-2 ■Tel/0258-32-1547 Fax/0258-32-1607 ■開業時間/6:00～19:00 ■お休み/日曜、祝日	人もお豆もマメに集める駅。一見すると料亭のような古民家風の建物が、まめまめ駅！朝早くから開いているので散歩のついでにどうぞお寄りください。国産大豆 100%の昔ながらの手作りとうふをご賞味あれ！

図表 2-1 長岡の「まちの駅」一覧（3）

名 称	住 所・連 絡 先 等	ひ と こ と
[中之島] 酒と人 ふれあいの 駅 【いわみや】 <名称変更> 中のしま いっぷく の駅	〒940-0124 長岡市中之島 215-1 ■Tel/0258-66-2076 Fax/0258-66-8055 ■開業時間/8:30～19:00 ■お休み/年中無休	長岡市の北の玄関、中之島。信濃川、刈谷田川に囲まれ、田園風景豊かな人情味あふれる地域で酒店を営んでおります。大口れんこんの蓮根で作られた全国でも珍しい「ワイン風のれんこん酒」も当地の自慢です。
[越路] 手作りの駅 【(有)ドリーム岩 塚】 <名称変更> 手作り漬物の駅	〒949-5414 長岡市飯塚 2191-9 ■Tel/0258-92-6477 Fax/0258-92-5105 ■開業時間/8:30～17:30(月～金) 10:00～16:00(土) 10:30～16:00(日・祝) ■お休み/第2・第4日曜	ホテルの里、長岡市(旧越路)で地元の新鮮野菜を使って、手作りのお漬物を作っています。四季折々のお漬物がたくさんございます。ズイキの漬物や味噌漬、梅干、梅エキスなど大変好評です。
[越路] 朝日郷 酒と食と文 化の駅 【ひねりもち総本 舗】	〒949-5412 長岡市朝日 584-3 ■Tel/0258-92-6070 Fax/0258-92-6192 ■開業時間/8:30～17:00 (そば処越州 11:00～16:00) ■お休み/元旦のみ	自然に囲まれた朝日郷。「酒文化」、「食文化」を育て、伝える駅です。 「そば処越州」で越路原産そばを食べたり、「越州陶芸工房」でオリジナル酒器も作れます。
[三島] まちの駅 花みずき 温泉 旬食・ゆ処・宿 喜 芳 <名称変更> まちの駅 喜芳【花 みずき温泉 旬食・ ゆ処・宿 喜芳】	〒940-2314 長岡市上岩井 6964 ■Tel/0258-42-4126 Fax/0258-42-4226 ■開業時間/10:00～22:00 ■お休み/年中無休	当駅は、長岡市の北西(旧三島町)に位置し、東山連峰の雄姿が望める自然豊かな場所に位置しています。旬の素材を使用したお料理と天然自噴温泉をご堪能いただけます。
[三島] みしま地酒の駅 【(有)すみよし屋酒 店】	〒940-2306 長岡市脇野町 467 ■Tel/0258-42-2416 Fax/0258-42-4443 ■開業時間/7:00～20:00 ■お休み/元旦のみ	かわいい亀や川魚のいる酒屋です。当店のオリジナル「いんごこき」は、やや辛口ながら旨みのあるお酒です。他にも地元三島の蔵元(河忠・中川・住乃井)の銘酒を取り扱っています。気軽にお立ち寄りください。
[三島] 清水地蔵の次の駅 【(有)高野屋酒店】	〒940-2313 長岡市吉崎 75 ■Tel/0258-42-2016 Fax/0258-42-2839 ■開業時間/7:00～20:00 ■お休み/不定休	三島の醸造通りに位置するまちの駅です。地域の名醸酒を揃えると共に、散策のお手伝いをいたします。特に日本酒に関しては、きき酒師もおりますので、地域の銘酒をご案内いたします。
[小国] まちの駅 養楽館 【おぐに森林公園 (養楽館)】	〒949-5332 長岡市小国町上岩田 208 ■Tel/0258-95-3161 Fax/0258-95-3144 ■開業時間/10:00～21:00 (12/1～3/31 は 20:00 まで) ■お休み/水曜	養楽館は、トロン鉱石を利用した準天然トロン温泉です。うちみ、捻挫、冷え性に効果がある他、施設には地元山菜を使った料理を楽しめる食堂があります。2階は各種宴会等ご利用できません。

図表 2-1 長岡の「まちの駅」一覧（4）

名 称	住 所・連 絡 先 等	ひ と こ と
[小国] ぎんなんアイスクリームの駅 【(有)山岸モーターズ・小国町特産品生産組合】	〒949-5215 長岡市小国町新町 15 ■Tel/0258-95-3113 Fax/0258-95-3114 ■開業時間/8:30~17:30 (特産品生産組合 8:00~17:00) ■お休み/第2・第4土曜日、日曜、祝日	アイスクリームや味噌など、ぎんなん加工品の製造販売を行っています。小国を訪れる方々に立ち寄りいただき、小国の良さをご案内します。
[和島] まちの駅 扇屋 【扇屋】	〒949-4525 長岡市島崎 4903 ■Tel・Fax/0258-74-2106 ■開業時間/8:00~19:00 ■お休み/不定休	良寛と貞心尼が歩いたといわれる「はちすば通り」沿いにあり、手書き絵ろうそくを作っています。南魚沼市で行われる「裸押し合い祭り」に使う高さ約90センチのろうそくも作っています。お気軽にお立ち寄りください。
[和島] おみそ屋の駅 【(株)早川商店(手まり味噌)】	〒949-4525 長岡市島崎 4687 ■Tel/0258-74-2017 Fax/0258-74-2894 ■開業時間/10:00~19:00 ■お休み/不定休	昭和初期より、糰屋として商売を始め、その後地元の大豆とお米を使って味噌づくりをするようになりました。「てまり味噌」の名称は、良寛さんが子供たちと手まりで遊ぶ姿からつけました。
[和島] まちの駅 もてなし家 【道の駅良寛の里わしま内】	〒949-4525 長岡市島崎 5713-2 ■Tel/0258-41-8110 Fax/0258-41-8112 ■開業時間/10:00~17:00 ■お休み/月曜(祝日の場合は翌日)	道の駅良寛の里わしまの「もてなし家」では、地域の特産品や地元産野菜の直売、食事や喫茶の提供、体験教室やコンサート、美術品展示会の開催、地域情報の発信等、地域の活性化活動を行っています。
[寺泊] まちの駅 寺泊 【寺泊観光協会】	〒940-2502 長岡市寺泊大町 ■Tel/0258-75-3363 Fax/0258-75-5126 ■開業時間/8:30~17:00 ■お休み/年中無休	魚の市場通りは、いつも新鮮な海の幸が店内にいっぱいあり、イキの良さで安さで大好評です。また、寺泊~赤泊間を65分で結ぶ新造高速船「あいびす」が就航し、佐渡日帰りパックが大人気です。
[栃尾] まちの駅 栃尾観光協会 【道の駅 R290 とちお内】	〒940-0233 長岡市栃尾宮沢 1764 ■Tel/0258-51-1195 Fax/0258-51-1190 ■開業時間/10:00~18:00 ■お休み/年中無休	道の駅「R290 とちお」館内で地域の観光や各種イベント・道路情報等の案内を行っています。また、館内には無料休憩コーナー、栃尾名産品の販売、レストラン等の施設も充実。どうぞ気軽にお立ち寄りください。
[栃尾] 日本茶の駅 【広野茶店】	〒940-0227 長岡市谷内 1-1-17 ■Tel・Fax/0258-52-2284 ■開業時間/8:00~19:00 ■お休み/不定休	日本茶アドバイザーのいるお店です。毎日変わる、知らなかった「茶のことわざ」や当店手作りのインテリアもお楽しみください。『日本てぬぐい』100種柄も魅力的です！
[栃尾] 時の音駅(名称変更により「時の駅」に) 【(有)フジナミ時計店】	〒940-0227 長岡市谷内 2-1-27 ■Tel/0258-52-2529 Fax/0258-52-9783 ■開業時間/8:30~19:30 ■お休み/不定休	長岡(栃尾)のまちをご案内します。雁木を歩いて疲れたらお気軽にお立ち寄りください。

図表 2-1 長岡の「まちの駅」一覧（5）

名 称	住 所・連 絡 先 等	ひ と こ と
[栃尾] とちお靴の駅 【山甲・靴・スポーツ店】	〒940-0227 長岡市谷内 2-4-2 ■Tel/0258-52-2542 Fax/0258-52-2694 ■開業時間/8:30～19:00 ■お休み/元旦のみ	水と緑と人の町「栃尾」。昔ながらの雁木のある街並み。自然あふれ、人情味のある人々。一度お越しください、栃尾へ…。きっとまた来てみたくなる心地良さ。栃尾にお越しの際は、年中無休『靴の駅山甲』へお寄りくださいませ。
[与板] まちの駅 与板刃物 工芸館 【与板刃物工芸館】 <名称変更> まちの駅 人生の交 差点	〒940-2402 長岡市与板町与板乙 1616-15 ■Tel/0258-72-2619 Fax/0258-72-2711 ■開業時間/9:00～17:00（日曜） ■お休み/月～土曜日	私たちは鍛冶屋なので、使い手と直接話して、その人の本当に求めているものをオーダーメイドで作ります。趣味等の手仕事についてのお手伝いも承ります。いつでもご相談ください。

資料) ながおかまちの駅【ながおか市民センター】、『越後ながおかまちの駅』（パンフレット）より作成。

2.2 「まちの駅」の取組紹介（ヒアリング結果）（註1）

2.2.1 「ながおかまちの駅」（ながおか市民センター）

(1) 実施概要

日時：平成 19 年 10 月 17 日（水）午後 2 時から午後 3 時 30 分

場所：「ながおかまちの駅」（ながおか市民センター）

講師：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任 近藤 芳博 氏
長岡市企画部企画課 主事 古泉 朝子 氏
長岡市企画部企画課総合政策班 主事 久住 浩明 氏

(2) ヒアリング内容

<長岡市が「まちの駅」の取組に参加したきっかけ>

- 全国で初めてまちの駅の取り組みが始まったのは平成 10 年であった。「ながおか市民センター」は、平成 13 年 10 月に、中心市街地（大手通り）に立地していた百貨店の空き店舗を利用する形でオープンし、それと同時に「ながおかまちの駅」としてスタートした。
- 市民センターは、公共交通機関の便が良く誰でも集まりやすい中心市街地に、市民の活動や交流・憩いの場、市役所のサービスを行う窓口が欲しいとの市民の声がきっかけとなり、当時全国でもようやく取り組みが始まったばかりの「まちの駅」の機能を活かした内容で開設された。市民の声を活かした運営を行い、たくさんの人から利用してもらうことによって、結果的に中心市街地の活性化に繋がっていきたいという考えもあった。
- 昨年からはスタートしたまちの駅のネットワーク実験については、合併した地域にもまちの駅を開設することによって、市民センターを中心としたまちの駅による「おもてなし」のネットワークを作り、地域間の人や情報の交流を図ることを目的としている。そこには、山間地から海までをもつ新長岡市の多種多様な伝統や地域の魅力発信、地域連携の強化に繋がればという考えも含まれている。



<地域における人の交流について>

- 長岡市は、人口 28 万人を有する県内第 2 の都市であるが、人口減少局面に入っており、活性化のためには市民の力と交流人口の増加が望まれるところである。つまり、地域に住んでいる市民同士の（市民レベルの）交流や地域を訪れる人を含めた交流人口の増加が期待される。
- 2006 年の長岡花火の見物客は 80 万人、2007 年のそれは 79 万人と発表されている。

<地域情報の効果的な発信と交流を推進する仕組み（理想）について>

- 具体的内容は未定であるが、各地域に開設したまちの駅を拠点に、互いの駅や地域の観光や歴史、文化など、市民のニーズに合った情報が受発信できるネットワークを目指している。また、全国に 1 千箇所以上あるまちの駅との交流・連携も進め、長岡の魅力为全国へ発信していきたい。

<まちの駅に正式に認定される基準>

- まちの駅の認定を受けるためには、まちの駅の条件（註 2）を備えていることと、「まちの駅連絡協議会」への入会（＝会費の支払い）が義務づけられている。協議会（事務局：地域交流センター）は、会員からの会費で運営されている。設置主体や設置場所には特に制限はない。
- ただし、正式認定の前に、実験期間が設けられている。協議会として、事前に実験期間を設ける理由としては、全国的なまちの駅の増加に伴ってまちの駅として適当でない施設の加入や安易な入会、早期退会などを防ぐためとのことである。
- 実験期間終了後、継続の意思確認の結果、継続の意向の場合、認定審査・登録・年会費の支払いにより、「まちの駅」の正式な認定を受けることになる。
- 長岡市内の「まちの駅（実験施設）」の場合には、長岡市が市町村会員として会費を支払い、他の駅は長岡市をキーステーションとする会費を必要としないサテライト施設としての位置づけとなっているため、長岡市に申込をする必要がある。実態は、長岡市からの呼びかけによって、実験施設になっていただいている施設が多い。実験期間は、1 年（協議会規定では 6 ヶ月以上 1 年 6 ヶ月未満）である。



<「まちの駅」開設目標値（平成 22 年度）について>

- 長岡市総合計画の目標年次である平成 22 年度までには、50 箇所を目標としている。地域バランスも考えて、各地域に 5 箇所ずつは開設していきたいと考えている。現在、立候補箇所は 7 箇所ほどある。

<国内の姉妹都市との交流について>

- 旧長岡市には国内に姉妹都市は無かったが、旧栃尾市等には姉妹都市が存在しており、現在も文化やスポーツを通して交流を続けている。他の地域の文化や人に触れることで地域の活性化や市としても勉強になる部分がある。

<市外に暮らす市出身者の交流ネットワークについて>

- 旧長岡市では地域等の団体ごとに市外に暮らす市出身者との交流を行っているが、市としての交流ネットワークは持っていなかった。現在は、市として「東京新潟県人会」へ加入したり、合併した旧市町村の交流ネットワークをその地域の交流として継承している。

<「長岡大学」にまちの駅を依頼した理由と望んでいること>

- 「御山（おやま）」と呼ばれ昔から市民の憩いの場として親しまれている悠久山に隣接した施設であることや、大学という専門研究機関であるため、これまでになかった連携の実現や学生の参加、地域活性化手法の提案等に魅力を感じたため相談させていただいた。
- 現在、大学で「まちの駅」になっているのは、長岡大学と宇都宮共和大学の 2 大学のみである。

<長岡市内のまちの駅同士の交流について>

- 商売同士(同業種)や地域での交流は多少見られるが、今後の課題と考えている。
- 市全体や地域別など、駅同士が交流できる取り組みを地道に続けていきたいと考えている。
- 実験開始から1年。何度かまちの駅に訪問していく中で、ようやくまちの駅と市民センターのつながりが出来てきた。今後は、駅同士の交流・連携もコーディネートしていきたいと考えている。

<まちの駅を依頼していて感じたこと>

- まちの駅が存在があまり市民に知られていないのが現状で、どうかしなくてはと模索中である。地域のイベントなど、不特定多数の人が集まる機会にまちの駅の紹介をするなど、今後もPRに努めたい。
- 合併をして一つの市になったものの、地域の住民は、まだ互いの地域について知らないことが多い。まちの駅が地域間をつなぐネットワークになればよい。

<まちの駅について困っていることや悩んでいること>

- まちの駅が存在を知らない人が多い。
- 広い市内に駅が点在していることや、本業の傍ら参加してもらっているため、まちの駅同士が交流する機会が少ない。
- まちの駅を継続していくためにはただ条件を満たしているだけでは難しい。参加者自身が、それぞれまちの駅にやりがいや楽しみを持って続けていけるよう、どうモチベーションを上げていくかが課題である。

<積極的にやっているところはどこか>

- 長岡市のまちの駅はまだスタートしたばかりで、どの駅もまだ試行錯誤の状況だが、地域内でうまく連携を取っている駅や、とにかく訪れたお客さんをもてなすことだけを頑張っている駅、積極的にイベントに参加している駅など取組みは様々である。今後も各駅の良さを活かしながら、その駅、地域にあったまちの駅に育てていきたい。
- その中でも、交流を深めている和島地域のまちの駅や、若者に人気の「音楽の駅」や「まめまめの駅」など、若い人ががんばっているところが力を入れてくれている。

(3) 入手資料

ヒアリングに合わせて、以下の資料をいただいた。

- 「ながおか市民センター」(パンフレット)
 - まちの駅連絡協議会「まちの駅(2006年 全国共通簡略版)」(パンフレット)
 - NPO 地域交流センター(まちの駅連絡協議会 事務局)『まちの駅へようこそ 2007年度版』
 - ながおかまちの駅【ながおか市民センター】「越後ながおか まちの駅 ネットワーク」(パンフレット)
 - 「農の駅 あぐらって長岡 ふるさと体験農業センター」(パンフレット)
- 等々。

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：吉田泰葉>

市民センター自体は、「まちの駅」としては特に問題点はないと思われる。しかし、市民センターは長岡市のまちの駅を中心施設であり、長岡市内のまちの駅に関する次のような問題点を克服していくことが必要であろう。

①まちの駅同士の交流が出来ていないこと。②まちの駅を訪れた人が退屈しないような駅のあり方の検討。③まちの駅主催者がやりがいをもてるようにモチベーションを上げること。

そのためには、市民センターと各まちの駅との交流だけでなくまちの駅同士の繋がりを促していくことに力を入れるべきと思われる。また、PR活動をもう少し考えたほうが良い(色々な情報を発信しているラジオの駅を活用するなど)と思われる。さらに、業種の枠を超えて交流をさせる場を設けてあげることによりまちの駅の活動が活発になると思う。

最後に、何を目的にどんな形でまちの駅が長岡市で施行されたのかがわかってよかった。

(註1) 本研究のメンバーが、「まちの駅」について調査の初期段階で、十分な知識がない中でのヒアリングに

もかわらず、懇切丁寧に対応して下さった関連機関の方々に、この場をかりて心からお礼を述べたい。

(註2) まちの駅の商品は、次の4点である。①「まちの駅」のサイン(のぼりや看板等)、②トイレ・休憩場所(ちょっと貸せる程度)、③まちの案内人(常駐、兼務可、道案内役)、④地域の情報提供(既存のパンフレット等)。(資料:まちの駅連絡協議会「まちの駅(2006年 全国共通簡略版)」)

2.2.2 栃尾地域「まちの駅」めぐり

(1) 実施概要

日時:平成19年10月24日(水)午後1時から午後5時30分

企画:まちの駅地域めぐりツアー 第1弾「栃尾・謙信公と雁木あいぼコース」

主催:ながおか市民センター

コース:①まちの駅訪問(その1):見学と意見交換、商店街の取り組み紹介など。

日本茶の駅(広野茶店)、時の音駅(フジナミ時計店)、とちお靴の駅(山甲・靴スポーツ店)

②市内見学:栃尾観光ボランティアガイドによる案内。

秋葉公園、常安寺、極楽通り、表町雁木通り

③まちの駅訪問(その2):見学と意見交換など。

栃尾観光協会(道の駅R290とちお)、産業交流センター「おりなす」

(2) 見学、訪問内容

<日本茶の駅(広野茶店)>

- 「日本茶の駅」は、日本茶アドバイザーのいるお店である。毎日変わる、知らなかった「茶のことわざ」や当店手作りのインテリアを楽しむことができる。お茶以外に販売している『日本てぬぐい』100種柄も魅力的である。
- まちの駅としての活動としては、栃尾地域のパンフレットや、店の奥にはお茶を飲みながら休憩できる場所がある。
- 隣接する「お休み処」は、昔、消防小屋として使われていたところを改装したもので、運営は商店街が協力して行っている。そこでは、休憩用の椅子や写真の展示、パンフレット等の配布、障害を持った方が地域との交流を目的に夏季限定ではあるが野菜の販売を週1回程度行っている。



<時の音駅（フジナミ時計店）：改称「時の駅」>

- まちの駅「時の音駅」は、11月の認定にあたって「時の駅」に名称変更された。
- まちの駅の活動としては、長岡（栃尾）のまちの案内やパンフレットの準備がされている。雁木を歩いて疲れたら気軽に立ち寄れるまちの駅である。
- 商店街の入り口にある「あいぼ処」は、閉店した本屋を改装した休憩所であり、商店街が協力して運営している。そこでは、例年5月頃から12月まで、毎週土日に栃尾の手まりや木工細工、パッチワーク、アルミ缶の帽子など様々な体験教室が開催されている。



<とちお靴の駅（山甲・靴スポーツ店）>

- 「とちお靴の駅」は年中無休で、履物や卓球用品などの販売を行っている。栃尾の良さを知ることができる駅である。「水と緑と人の町・栃尾。昔ながらの雁木のある街並み。自然あふれ、人情味のある人々。栃尾へ…。きっとまた来てみたくなる心地良さ。」をキャッチフレーズに開設されている。
- ここでも、パンフレットは店外に置かれており、店の奥にはまちの駅同士の打合せにも使われている休憩コーナーがある。



< 栃尾観光協会（道の駅 R290 とちお） >

- 道の駅「R290 とちお」館内で地域の観光や各種イベント・道路情報等の案内を行っている。また、館内には無料休憩コーナー、栃尾名産品の販売、レストラン等の施設も充実している。
- 年間 30～40 万人の来客数である。現在のところ、まちの駅というより、道の駅として知られている。

< とちお地域のまちの駅に関する印象 >

- 共通していたのはパンフレットを店外に設置するという点である。そうすることによって来訪者は気軽に、気を使わずにパンフレットを手にとることができるというメリットがある。
- もう一つ共通していたのは、まちの駅になっても集客や日常の業務などの状況は変わらないということである。この点は、大きな変化は無くても、実際の集客やお店の方の気持ちなどに良い変化が起こるように、今後の努力が必要であろう。そのためには、市民センターの協力が必要不可欠であり、まちの駅の広報やまちの駅としての取り組みなど、まだまだやらなくてはならないことがたくさんあると思われる。
- また、道の駅との併設では、その知名度から道の駅が目立っているが、道の駅はドライバー中心の訪問客が対象であり、まちの駅はまちづくりも一つの目的であるため、商店街のまちの駅とうまく連携する仕掛け作りが望まれる。
- 栃尾は謙信公ゆかりの地であり、史跡や神社も多く、古風な町並みという地域資源もあり、まちの駅を中心とした地域活性化が期待される。



(3) 入手資料

- 長岡市栃尾支所商業観光課、栃尾観光協会「とちお観光マップ」
- 長岡市栃尾支所商業観光課「とちお 観光・イベント情報」（10月号、11月号）
- 栃尾観光協会、長岡市栃尾支所商業観光課「とちお ロードマップ」
- 長岡市栃尾支所商業観光課、栃尾観光協会「とちお 旅ごよみ」
- 長岡市栃尾支所商業観光課、栃尾観光協会「上杉謙信公ゆかりの史跡」
- 長岡市栃尾産業交流センターおりなす「おりなす」（パンフレット）
- 杜々の森水公園管理運営組合、長岡市栃尾支所商業観光課「とちお 全国名水百選 杜々の森」（パンフレット）
- 「とちお 町めぐりまっぷ」「とちお 旨いものまっぷ」等々。

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：柳下直人>

栃尾地域における「まちの駅」でも、他の地域と同様に認知度の低さが問題であり、まちの駅になっても状況は変わっていないということである。

そのような状況を打開するためには、①栃尾のまちの駅地域めぐりツアーの実施回数を増やし、積極的なアピールを実施する、②さまざまな体験教室が行われているので、それを有効活用し子供たちにたくさん参加を呼びかける、③子供たちにまちの駅の存在と地域とのつながりをその体験を通じ、体で感じてもらう、④無料で郷土料理を提供するコーナーを作る、等の企画が必要であろう。そのときに、重要なことは、子供たちは栃尾地域の子でも良いと思われるが、大人については長岡市全域、さらに、市外の人々もターゲットとすることが重要ではないか。

栃尾には訪れる機会は少ないのだが、栃尾は謙信公ゆかりの地であるため、史跡や神社が多く、古風な町並みが今なお健在しており、とても歴史が深い土地だということ認識した。商店街の協力のもと使わなくなったスペースを改装し、市民の憩いの場として提供しているという工夫には積極的に地域内での交流が行われているのだろうと感じた。これに加えて、「まちの駅」間での交流ができるようになればまちの駅を中心に、歴史に触れにくる観光客も増えてくるのだと思う。

2.2.3 「まちの駅 寺泊」（寺泊観光協会）

(1) 実施概要

日時：平成 19 年 11 月 14 日（水）午後 2 時から午後 2 時 45 分

場所：「まちの駅 寺泊」（寺泊観光協会）

講師：寺泊観光協会

事務局長 足立 久尚 氏

指導：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任

近藤 芳博 氏

(2) ヒアリング内容

<寺泊観光協会の起こりと現在の寺泊地域>

- 寺泊は創業室町年間と言われている宿もある土地で、終戦直後の娯楽のない中でも海水浴をメインにして、人を呼ぼうと考えたのが観光協会の始まりである。
- 寺泊地域の現在は、魚の市場通りが有名で、弥彦や岩室温泉等の観光客のおみやげ購入ルートとして定番となっている。また、佐渡観光の起点として、寺泊～赤泊間を 65 分で結ぶ新造高速船「あいびす」が就航し、佐渡日帰りパックが人気である。



<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- まちの駅の条件を聞き、寺泊観光協会は、元々、休憩できる場所があること、トイレが利用できること、観光案内所として活動していたため資料も豊富にあったことなどから、参加できそうだと感じて引き受けた。もうひとつの理由は長岡市からの依頼もあり、『実験期間』と言われて気軽に参加したこともある。

<まちの駅になった時期と現在の状況>

- 2006 年（平成 18 年）11 月 3 日からスタートした。
- 実験期間が終わっても他の「まちの駅」も延長する予定であるし、長岡市側も寺泊には継続してもらいたいと願っているということで継続している。観光協会としても、まちの駅の必要条件に合致していることと観光の窓口ということもあり、使命感をもっている。

<他のまちの駅との交流について>

- 観光協会の仕事が忙しくて、あまり「まちの駅」同士の集会には参加できていない。専任の職員は 3 人で、休日は年始の 3 日間のみである。営業時間は 8:30～17:00 であるが、アイビスが 7 時に寺泊に到着するため、実際は 7:00～18:00 になっている。

<まちの駅への来客数と動向>

- 寺泊の魚市場の年間来客数は 180 万人程度である。1 日当たりでは約 5000 人である。観光協会での宿泊案内は年間 1 万人程度である。過去最高は 2 万人であった。
- 最近の活動としては宣伝に力を入れており、地域の方でもホームページを開設しているところが 10 件くらいあるが、その他の方たちは料金（年間 1 万円から 1.2 万円）を徴収し協会を通してリンクしている。
- 平成 17 年に「あいびすパック」がスタートして、佐渡の日帰り観光が可能となり、3 年間で 3 万人の利用者がいた。今年度は 9,000 人の利用であった。比較的リピーターが多く、今後新しい顧客の開拓が課題である。
- まちの駅になったからといって特別交流面や来客数が増加してはいないと思われる。



<まちの駅としての活動・サービス内容>

- 観光協会の活動目的は海水浴客を中心とした観光客の呼び込みであり、宿泊案内、周辺の観光案内を行っている。この点は、これまでと変わりはない。
- 寺泊のお店や旅館の取り組みについては、自分たちがやらなきゃいけない範囲で関わっている。駐車場の清掃等はしている。
- まちの駅になったことにより、協会の外にはある（協会内は非常に手狭である）が、ベンチを用意したことで、まちの観光案内や景観をゆっくりと見てもらえるようになり、それなりの効果はあったと思っている。観光客だけでなく、市民も利用しており、市民の輪もできつつある。私たちが訪ねたときに一人お客さんがいた。お話を伺っているときにも地域の方が一人尋ねてこられた。この様子を見ても地域の方に利用されているのは実感できた。
- 観光協会の方はとても親切であった。地域の方との交流を見ても慕われている様子がわかり、とても居やすい環境だった。

<まちの駅になったメリット・デメリット>

- メリットは、今回のように学生のヒアリング調査、地元の人などがまちの駅って何ですかと訪ねてきてくれることである。それによって、寺泊を広報できると思われる。一方で、やはりまちの駅の知名度があまり無いことと、具体的なメリットがあまり無いという印象もあるようだ。
- デメリットはない。忙しいため、まちの駅の交流会に参加できないことには、心苦しさを感じている。また、まちの駅全体で連携することも重要と思われるが、なかなか足並みをそろえることができないようである。

<これからの活動>

- 佐渡汽船『あいびすパック』を利用して、佐渡への観光客を増やしていこうという活動に力を入れている。中越地震に続いて、中越沖地震もあり風評被害もあるが、仮設の方にも利用してもらおうとも考えている。

【指導・補足説明】

- 寺泊地域には、他にも民宿や佐渡汽船などのまちの駅候補もいくつかあったが、今回の実験には間に合わなかった。寺泊地域は海という観光資源を持ち、歴史も古い。また、市外からの観光客も多く、去年は海岸で E ボートレースを通じた交流会も開催され、県外からの参加者もあった。全国には「海」をテーマにした「海の駅」もあるが、寺泊も複数のまちの駅が観光協会を中心に連携し、長岡の「海」の情報交流拠点として育てて欲しいと期待している。

(3) 入手資料

- 寺泊観光案内所・寺泊観光協会「寺泊」（パンフレット）ほか、寺泊観光施設のパンフレット
- 佐渡汽船『佐渡 2007』（パンフレット）ほか、佐渡観光施設のパンフレット、ロードマップ
- 広井忠男『長岡に海が来た！ 日本海の鎌倉 寺泊の歴史ロマン』（日本海企画社）

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：柳下直人>

まちの駅に関する活動について、①忙しいため、まちの駅の交流会に参加できない、②「まちの駅」及び寺泊地域の観光関連事業所間で、なかなか足並みを揃えることが出来ない、③まちの駅の知名度の低さ、等が問題と思われる。

これらの問題点を克服するためには、まちの駅を中心としたネットワークの必要性は高いと思われる。寺泊は観光地であるが、栃尾のまちの駅のバスツアーのような企画の実施で交流の場を増やすことも必要であろう。元々、寺泊観光はリピーターが多いということであるので、観光ツアーがもう二度と訪れないことにはならないので、有効な手段ではないか。

その意味では、寺泊地域にはもっとまちの駅があってもいいと思う。県外から来られる客が多い土地柄、周辺を案内できる施設、または商店があれば、寺泊内でのまちの駅間の交流が出来てくると思う。忙しくとも、同じ地域内であればそれは不可能なことではないと考える。小さなところからでも、まちの駅として、または海の駅として大きく知られるようになって欲しいと思う。

<ヒアリング所感：吉田泰葉>

寺泊観光協会は、①人員構成や営業日・営業時間の関係から、忙しくて他のまちの駅と交流ができない、②人通りの少ないところに立地しているので、地域外の人が訪問しづらく、近所の人しか来ない、等の問題がある。

①については、寺泊の方が忙しくて集会に顔を出せないのならば、寺泊を集会の場所にすれば出席できるのではないか。また、②については、佐渡へ向かう観光客がもう少し利用しやすいように工夫すれば、まちの駅の認知度も上がるのではないだろうか。特に、寺泊は新潟の代表的な観光地であるので、少しずつでも活動していけば他のまちの駅に刺激を与えて面白いことが出来るのではないかなと思った。

ヒアリングにあたって、観光協会の方がとても丁寧にもてなしてくれたことに感謝いたします。まちの駅としての取り組みで外にベンチを置いた活動はほんの小さなことだったが、効果があったと聞き、他のまちの駅の人も見習って欲しいと思った。地域の方に慕われ利用されている様がヒアリング中で良く分かった。長岡大学もこんな風な「まちの駅」にしていきたいと思った。



2.2.4 「おみそ屋の駅」（早川商店）

(1) 実施概要

日時：平成19年11月14日（水）午後3時から午後3時30分

場所：「おみそ屋の駅」（㈱早川商店）

講師：えちご手まり味噌醸造元 株式会社早川商店

早川 孝夫 氏

指導：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任

近藤 芳博 氏

(2) ヒアリング内容

<早川商店の概要>

- 昭和初期より、糶屋として商売を始め、その後地元の大豆とお米を使って味噌づくりをするようになった。
- 「手まり味噌」の名称は、良寛さんが子供たちと手まりで遊ぶ姿からつけられたものである。

<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- 直接的なきっかけは、旧和島村の行政課長に依頼されたためであるが、ここの立地は、「はちすば通り（註1）」の入り口にあり、これまでも良寛関係の観光客に簡単な案内等をしていた。したがって、「まちの駅」になったからといって特別に何かをしなくてもよかったこともある。



<まちの駅になった時期>

- 他の「まちの駅」と同様、2006年（平成18年）11月3日から実験施設としてスタートした。

<他のまちの駅との交流について>

- まちの駅同士の交流会には、忙しく余裕がないため頻繁には参加できていない。これからは積極的に参加していきたい。

<まちの駅への来客数と動向>

- 取り立てて来客数が増加したということはない。良寛さんの史跡を訪ねてきた人が「まちの駅」の看板を見て、たまたま立ち寄るのみで、年間、数十人程度である。
- 「はちすば通り」の保存・整備の話もあり、今後は協力していきたい。



<まちの駅としての活動・サービス内容>

- 「木村家」「良寛」「はちすば通り」関連の周辺地域の案内などを行っている。

<まちの駅になったメリット・デメリット>

- 特にない。

<これからの活動について>

- はちすば通り、街並み・家並みなどをたくさんの方に知ってもらうため努力はしているが、中心となる人物がいないのも事実である。
- また、「まちの駅」の方向性が漠然としているため、逆にいろんな方からの意見・提案が欲しいと考えている。
- 「まちの駅」とは直接関係ないが、和島の売りがないことが問題である。他地域での和島への関心度・知名度を高める努力の必要性は痛感している。



【指導・補足説明】

- 今年は、良寛生誕 250 年ということで、「はちすば通り」のまちの駅にも観光客が訪れる機会が増えると考えられる。まちの駅同士はもちろん、支所とも連携をとって案内用の地図やパンフレットの充実など検討したい。
- 和島地域では、「もてなし家」に地域のまとめ役を担ってもらっており、駅同士の連携がとれている地域である。まちの駅は単独ではなかなか続かない。他の地域でも地域内で複数の駅が連携できるようにしていきたい。
- この駅の味噌が、もてなし家でも販売されているように、まちの駅同士（市外も含む）で、情報と一緒に「物」の交流もできたら面白い。

(3) 入手資料

- 長岡市和島支所産業課「はちすば通り 良寛碑めぐり」（パンフレット）
- 和島島崎地区まちづくり協議会・長岡市「はちすば通信」

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：目黒加寿也>

「おみそ屋の駅」の駅長の早川さんは、典型的な新潟人という感じで、あまり自慢げなことは言われませんでした。その結果、まとめが淡泊なものになってしまいましたが、地域を思う気持ちは十分に伝わってきました。

周辺の環境、条件がしっかりと整っていないければ、まちの駅ができて、実効性はないと思われる。その意味では、「はちすば通り」の整備も重要であるが、それ以外の和島の売り・魅力を新たに見つけていくか、今あるモノ・場所を活かしていくという事を、住民や市などが一体となって積極的に進めなければ地域の活性化はないと思われる。

(註1) 「はちすば通り」：良寛由来の街並み。

『良寛は晩年島崎の木村家に身を寄せ、足掛け5年間その地域の人々と穏やかな日々を送られました。

自らを厳しく律し、決して名利に走らず修行をし続けてきた良寛の生涯で唯一氣を許したといってもいい尼僧、貞心との初めての出会いがこの地「島崎」です。

良寛が74才で遷化するまで二人の交流が続き、数多くの相聞歌を残されています。貞心尼は良寛が亡くなった後、その相聞歌を歌集として書き残しています。その歌集は「蓮の露（はちすのつゆ）」として、現在まで二人の師弟愛の美しさ伝えられています。

平成3年4月に良寛の里をオープンした際に、ここを訪れる人たちに当時の良寛と貞心の清らかな師弟愛の一端を感じてもらいたいとの思いから、良寛と貞心が歌を詠み交わしながら歩いたであろう、この木村家から良寛の里までの通りを「はちすば通り」と名づけました。』（長岡市和島支所産業課「はちすば通り 良寛碑めぐり」より。）

2.2.5 「まちの駅 扇屋」

(1) 実施概要

日時：平成19年11月14日（水）午後3時30分から午後4時

場所：「まちの駅 扇屋」

講師：良寛の里 わし ま 「扇屋」

阿部 虔平 氏

指導：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任

近藤 芳博 氏

(2) ヒアリング内容

<扇屋の概要>

- 「扇屋」は良寛と貞心尼が歩いたといわれる「はちすば通り」沿いにあり、伝統工芸である「手作り和ローソク」や「手書き絵ローソク」を製造している。また、南魚沼市で行われる「裸押し合祭」に使う高さ約90センチのろうそくも作っている。
- 現在、長岡市でローソクを製造しているのは2件のみである。



<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- 和島支所から依頼されて、自分の店のようなところで良いならと思い引き受けた。
- お店の中は、私の実家の茶の間のような雰囲気でお客さんが訪ねて行きやすい感じのところだった。近所の方がお茶を飲みによく来るようで、イスと飴が用意されていた（ごちそうさまでした）。これだけでもまちの駅としての一つの大事な要素なのではないかと私は思った。

<まちの駅になった時期と現在の状況>

- 他の「まちの駅」と同様、2006年（平成18年）11月3日から実験施設としてスタートした。

<他のまちの駅との交流について>

- 扇屋さん自体は非常に気さくな方であるが、職人であり、会議等は苦手であるそうで、交流会議には参加していないそうである。しかし話を聞いていると「おみそやの駅」も近くにあり、同じ地域の方との交流は盛んなようである。

<まちの駅への来客数と動向>

- この質問に「お茶飲みのお客は増えたよ」と笑いながら答えてくれた。現在のところ、観光客も少なく、時々、「木村家」や「隆泉寺」などを案内する程度である。
- 「はちすば通り」自体が、立地的にわかりづらいところにあるのが問題点の一つだと思った。
- お店のディスプレイの大きな蝋燭やカラフルな蝋燭は絵柄にも意味があり、伝統工芸の素晴らしさを感じた。
- 「はちすば通り」を歩いてみたが車の通行があまりなくて、神社など見てまわるところがあり、ゆっくりのんびり歩くのにはとても良い通りだった。しかし、あまり観光客や尋ねてくる人もいないのが現状のようだ。観光客が多すぎたり過剰に紹介しすぎても、「はちすば通り」の良さが生かせなくなりそうだが、和島地域には「良寛さん」という文字が載った看板がいくつもあるのに「良寛さん」のことをうまくアピールしきれていない姿が悲しかった。
- 「はちすば通り」等の昔ながらのもののアピールがもう少しうまく出来れば交流が生まれて面白いのではないかと考えさせられた。

<まちの駅としての活動・サービス内容>

- 活動としては支所便りへの掲載もしている。その他は上記に記したように、憩いの場の提供をしている。お客さんは1日4人くらい来ている。
- お店には少し大きめの窓があり、外から良く見えるので人が居ると自然とそこにまた人が集まってくるという話だった。ご近所の輪が出来ているのだと感じた。「まちの駅」同士もそんな風になれば良いと感じた。



<まちの駅になったメリット・デメリット>

- 特にこれと言ってメリットやデメリットはないが、「FM ながおか」などのインタビューを受ける機会ができた。
- 「扇屋」さんが直接話されたわけではないが、ローソク作りは伝統工芸であり、全国に発信して産業を守っていくという点からは、効果があるのではないかと感じた。

<これからの活動>

- 特に考えてはいないということである。
- おそらく今まで通り活動していくのだろうなと思った。「まちの駅」ということをそれほど重視していないが、マイペースに活動しているあたりが自然とまちの駅の活動に結びついていた。
- 蝋燭がすごく綺麗だったので、もっと公の場でアピールしていくような活動をしてほしいと思った。

【指導・補足説明】

- この駅は、まちの駅になったからといって特別な活動はしていないが、良寛ゆかりの地で、訪れた観光客をもてなしたり、地域の住民の溜まり場になったりとこれまでのやり方ががんばっている。外交的な活動は、「もてなし家」が地域の代表として行うなど、和島地域のまちの駅はお互いが補い合い、助け合いながらがんばっている。
- また、まちの駅になったことで、市役所関係やテレビの取材など、いろいろな人がやって来るようになり、多少面倒に感じているかもしれないが、楽しんでもらっているものと信じている。

(3) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：吉田泰葉>

問題点と言われれば、「まちの駅」としての自覚が足りない、工夫が無い、集会に参加していない、等があげられてしまうかもしれない。しかし、蝋燭屋さんは活動をしていないようで、地域のなごみの場として、その存在感を維持している。「まちの駅」としてでは無いかも知れないが、それが大事なのだと思う。



和島地域の「まちの駅」を広めるためにも、蝋燭づくりという伝統工芸の素晴らしさを PR することから始めてみてはどうかと思う。自分たちのもっているものを人に見せることで自然とまちの駅の PR に繋がっていくのではないかと。また、扇屋さんはとても居心地が良かったので、集会で人の取り組みを聞くのも大事だが自分たちの取り組みも教えてあげるべきだと思った。

また、扇屋さんはもう少し立地がよければ来客数も増えるのではないかと考えた。蝋燭という伝統工芸をよく知らなかったのが実際に蝋燭を見ることができて感動した。蝋燭づくりを体験したいとも思った。PR や企画によっては私のような体験したい人は出てくると思う。人数限定でも良いから試みたらどうかと思った。衰退していくのを時代の流れのせいにしてばかりではいけないと思う。他のまちの駅との交流も深めて欲しい。

2.2.6 「まちの駅 もてなし家」(道の駅良寛の里わしま内)

(1) 実施概要

日時：平成 19 年 11 月 14 日(水) 午後 4 時 10 分から午後 5 時 20 分

場所：「まちの駅 もてなし家」(道の駅良寛の里わしま内)

講師：道の駅良寛の里わしま、NPO 理事・道の駅駅長 山田 勝 氏

指導：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任 近藤 芳博 氏

(2) ヒアリング内容

<良寛の里わしまの概要>

- 「道の駅良寛の里わしま(平成 7 年登録、平成 16 年リニューアルオープン)」は、国道 116 号線と和島バイパスに隣接した道の駅である。「良寛の里美術館」、「歴史民俗資料館」、「菊盛記念美術館」といった既存の施設に加え、情報ターミナル・トイレ・駐車場、休憩施設「もてなし家」から形成されている。人々に慕われ、自然の中に生きた良寛さんの心を感じることでできる道の駅である(註 1)。
- 地域交流センター「もてなし家」は、歴史が刻まれた築 170 年の古民家を長岡市和島高畑集落から移築した施設である。「もてなし家」は、温故知新の精神に基づき、豊かな自然・文化を知っていただくことを目的とした NPO 特定非営利活動法人「和島夢来考房(わしまむらこうぼう)」が企画・運営するアンテナショップである。この施設が大切にしているのはぬくもりと真心であり、自然の中に生きた良寛さんの心でもてなす和みの時間を提供してくれる(註 1)。
- 「NPO 法人 和島夢来考房」は、平成 16 年 4 月、国道 116 号線と和島バイパス沿いにリニューアルオープンした「道の駅良寛の里わしま」内の地域交流センター「もてなし家」を活動拠点にして、自治体や地域住民および多くの人たちを巻き込みながら、地域づくりに関する各種活動を展開し、新たな交流の創出、地域資源、人的資源の発掘とネットワーク化、地域風土と伝統の保存継承など、地域の活性化に寄与することを目的に当時の和島村に設立された。現在は長岡市の指定管理者の指定を受けて道の駅(地域交流ゾーン)の管理運営を行っている(註 2)。具体的には、地域の特産品や地元産野菜の直売、食事や喫茶の提供、体験教室やコンサート、美術品展示会の開催、地域情報の発信等、地域の活性化活動を行っている。



<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- 長岡市民センターから H18 年 11 月に実験施設への呼びかけを受けて参加した。動機は、まちの駅の考え方、機能が道の駅での我々の活動との間に違いが無く参加に障害が無いことと、近隣にまちの駅ができると、そこ連携した活動ができるのではないかと期待感からである。現在のなんでも道の駅中心の考え方から、個から地域連携へということで、新しいステップとして取り組んでいきたいと考えている。当地域には、「おみそ屋の駅」と「まちの駅 扇屋」ができ、長岡市民センターと和島支所を交えた中で、それぞれの規模、位置、特長を活かす活動をすすめることにしている(註 2)。

<他のまちの駅との交流について>

- 和島地域の「まちの駅」は、「もてなし家」が中心となって活動をしているといえる。他のまちの駅も、「もてなし家」さんから突破口を開いていただくことを期待しているところもあり、助かっているともコメントしていた。他のまちの駅とも交流し、店の経営等においても周りの商店に刺激を与えているようだった。実際、「おみそ屋の駅」の味噌は、「もてなし家」さんの店頭に並んでいた。

<まちの駅への来客数と動向>

- 平成 18 年度に来客数は約 51,000 人（レジでカウントされた人数）で、166 人／日である。平成 17 年度よりも約 30%の増加となっている。平成 19 年度の上期は約 35,000 人の来客となっており好調を維持している。
- この増加の要因は、まちの駅になったからというよりも、平成 18 年 1 月 1 日に和島村は長岡市と合併したので、その影響が大きいと考えている。旧和島村の高校の学区は柏崎や分水・吉田との学区になっており、長岡学区ではなかったということもあり、旧長岡市との交流は盛んではなかったのは事実である。そのような状況にあったので、合併による目新しさもあったと思われる。



<まちの駅としての活動・サービス内容>

- 地元野菜の販売や地元の特産品を使い調理したり、ミニコンサートを行ったりして地域の方に触れてもらうことで、知ってもらおう！としている。そして、ほっと一息ついてもらうことも忘れてはいない。
- 利用客は、定年を過ぎた夫婦や 50 代～60 代の女性を中心である。大型バス等はめったに来ないので少人数で来るお客さんが多い。
- 市職員に呼びかけて「まちの駅」を利用してくれと存在をアピールしている。

<まちの駅になったメリット・デメリット>

- まちの駅が市民の人に浸透していないこと、知名度が低いことが悩みである。どこのまちの駅を訪ねてもこの質問に対する回答は同じであった。
- 新潟日報のガイドブックやテレビ・ラジオの取材も多く、総合的な意味で、和島地域を知ってもらう役割は果たしていると思う。

<これからの活動>

- お客さんとのコミュニケーションを心がけていくことが大事。人的つながりが出来てきているのでこれからもそれを大事にしたいと考えている。
- イベントや「まちめぐり」などの企画も継続していきたいと思っている。

【指導・補足説明】

- 和島地域のキーステーションとしての役割を担っており、道の駅とまちの駅をうまく両立させている。リーダーも多く、季節のイベント企画やお客さんのもてなし方など、参考になることが多い。
- 昨年、山田さんのとりなしで、和島の 3 駅、市民センター、和島支所地域振興課の担当者の 5 人で意見交換会を和島で行った。地域のまちの駅との意見交換の機会として他の地域でも開催していきたい。
- 市役所は、まちの駅は市民センター、観光は観光課、地域のことは支所、というように、とかく縦割りになってしまうが、山田さんは様々な部署の事業に関わりながら、各部署を横につなぐ努力をされている。市民センターとしても、今後はしっかりと各部署と連携を取っていかなくてはならない。

(3) 入手資料

- NPO特定非営利活動法人 和島夢来考房「道の駅良寛の里わしま地域交流センター もてなし家」(パンフレット)
- 「NPO法人 和島夢来考房」に関する講演資料(作成:山田勝氏)
- 「道の駅良寛の里わしま地域交流センター もてなし家 通信」等々の広報資料

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感:吉田泰葉>

道の駅として使われているだけあって、和島の他のまちの駅より活気があった。NPO法人としても活動しており、長岡市の目的とも合致している。現在でも、「もてなし家 通信」(平成19年10月現在、37号に達している)を発行しており、地域の方や他のまちの駅との交流の中心的役割を果たしている。

「もてなし家」は店の雰囲気や出迎えてくださった山田さんの対応がとても気さくで親切だった。店内にはイベントを行った時の写真が壁に展示してあった。初めて来た人でも「和島地域」という場所がどんなところか感じられるのでとても良いと思った。長岡市の特産物を販売しているところや「もてなし家」でしか食べられない「ガンジーソフトクリーム」など、地産地消を実践しており、「和島地域」の代表的な取り組みを感じることができた。和島のまちの駅同士が繋がりあう(点が線になる、その代表例が「はちすば通り」)のを山田さんは望んでいた。そのために市に働きかけることやNPO活動を行っている山田さんの積極性を見習いたい。また、人的つながりを大事にしている姿や「商店は単独ではすぐに離脱してしまう」からと他の商店のことも考えていこうとする姿勢が素晴らしかった。他のまちの駅と交流することにより、商店の経営面でも参考になると語っていた。店の責任者、地域のリーダーとしての意識がとても高かった。

「もてなし家」は道の駅の実績もあり、道の駅としてはこれまでに人のつながり、集客面で成功を収めており、まちの駅としても今後が期待できると思われる。

(注1) NPO特定非営利活動法人 和島夢来考房「道の駅良寛の里わしま地域交流センター もてなし家」(パンフレット)より。

(注2) 「NPO法人 和島夢来考房」に関する講演資料(作成:山田勝氏)

2.2.7 寺泊・和島地域を見学して<所感:柳下、目黒、吉田>

<所感:柳下直人>

今回の4ヶ所のヒアリング調査を通じて、まだ、「まちの駅」自体の知名度が低く、まちの駅を引き受けた人もなかなか思うようにいっていないという印象を受けた。また、高齢の人が多く積極的、精力的に活動していくには年齢的な問題もあるのかなと感じた。

今後益々高齢化が進行する中で、この地域に住む若者や、合併した長岡の人々が共に行動し、地域を活性化していく方策を考える必要性を強く感じた。とりわけ、旧寺泊町が合併したことにより、長岡市は海を持つことになり、一大観光地を持つことになった。折角のそのようなチャンスが全く活かされないで、やっぱり合併しなかった方が良かったということになるのはあまりに寂しいと思う。

<所感:目黒和寿也>

この地域を巡ってみて、①まちの駅としてのサービス・活動をどのようにしていくべきか、②現在まちの駅として行っているサービス・活動が市民にとって本当に役立っているのか、③まちの駅としての活動内容が明確になっておらず漠然としているのではないか、④他地域での和島への関心・知名度が低いのではないか、等の印象を受けた。

現在和島では、「はちすば通り」の景観整備などを行い、地域全体の活性化に繋げようと努力している。それ以外にも、美術館、資料館など数多くの歴史的建造物などがある。

このような今ある豊富な歴史的財産をどのように活用していくのか、また、新たに和島の魅力、売りとなるモノ・場所をどうやって造っていくのか、しっかりと方向性を決め、住民と市が一体となり再度考え、足並みを揃えてゆく必要があると私は思う。その意味では、和島地域は、観光や地域の売り込みについて、まだまだ未開の地という印象が強い。

<所感：吉田泰葉>

寺泊・和島地域のまちの駅を4箇所訪ねてみて感じたのは、観光案内所や商売をしているだけあって、とても快く受け入れてくれて話をしてくれたことである。一方で、「まちの駅」に知名度が無く、各々が右往左往しながら活動に取り組んでいる様子もわかった。

良かったところは、どんな結果が出るかはわからないにしても、長岡市の活性化に向けて一生懸命取り組んでいる感じが感じられたことである。話を聞く前までは正直、何もしていないのではないかと思っていたので、市民センターと地域の人との関わりの深さに驚き感心した。しかし、ヒアリングに行った学生の中には「積極性が感じられない、頼まれたからといって今まで通りのことだけをやるのではなく、工夫をこらすべきだ」等の意見もあり、「まちの駅」としての評価はまだまだ低いと感じた。お店は動かすことは出来ないが寺泊観光協会はどう少し人通りの多い場所に移っても良いのではないかと思った。寺泊すべての観光に関して仕事をしているのであの場所なのかもしれないが、特に佐渡汽船に乗るお客さんは乗り場に集まるわけで、他の団体との利害関係もあるかもしれないが、場所の検討を試みる価値はあると思った。

このヒアリングで実際にまちの駅に取り組んでいる人に会って話が聞けたのは非常に有益であった。この話を今後の学生生活に活かし「まちの駅」のより一層の活性化を考えていきたい。

2.2.8 「越後長岡 酒と味の駅」(有佐田酒店)

(1) 実施概要

日時：平成20年1月16日(水) 午後1時30分から午後2時20分

場所：「越後長岡 酒と味の駅」(有佐田酒店)

講師：佐田酒店

佐田 晃 氏

指導：長岡市市民協働部市民活動推進課市民センター班 主任 近藤 芳博 氏

(2) ヒアリング内容

<「越後長岡 酒と味の駅」の概要>

- 佐田酒店は、山本五十六記念館、山本記念公園、河井継之助邸跡が近くにあり、まちの駅として各施設への道案内や長岡の地酒や調味料の話題などを知らせている。



<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- 市民センターが行ったまちの駅の説明会に、「NPO法人ながおか生活情報交流ねっと」の知人に誘われて参加したのがきっかけである。(現在、同NPO法人は、まちの駅の一つである「農の駅あぐらって長岡」を運営している。)
- 日頃から山本五十六記念館等への道案内などで店を訪れる方も居たので、まちの駅として特別な準備の必要がなかった。

<まちの駅になった時期>

- 他の「まちの駅」と同様、2006年(平成18年)11月3日から実験施設としてスタートした。

<他のまちの駅との交流について>

- 他のまちの駅とは、市民センター主催の会議等を除いては、特別に集まったりはしていないが、平成18年11月に市民センター前で行なわれた「まちの駅物産展」で知り合った「まめまめの駅(吉田豆富店)」とはそれ以来交流が続いている。
- それ以外では、市民センターが作ったメーリングリストのおかげで以前よりは交流の機会があるが、これにはまちの駅に参加している商店等の各々の忙しさや、高齢の方も居るのでメールでの交流が出来ているのは実際まちの駅に参加しているお店の半分、15駅(市民センターを含む)である。

<まちの駅への来客数と動向>

- まちの駅自体がまだ市民に浸透しておらず、まちの駅になっても来客数には変化はない。その原因はやはり「まちの駅」自体が市民に浸透していないことにある。「街中の人でも知らない人はいる。

- 市民やより多くの方にまちの駅のことを知ってもらい、県外からもお客さんにも来てほしい」佐田さんはこんな風に望みを語っていた。その一方で、「自分たちも外から来る『まちの駅利用者』の対応に慣れていないし、お客さんもまちの駅の利用に慣れていない」ともおっしゃっていた。

<まちの駅としての活動・サービス内容>

- まちの駅として各施設への道案内や長岡の地酒や調味料の話題などを知らせている。
- トイレはあるが座って休憩する場所が無い点が問題である（註）。

（註）長岡のまちの駅では、トイレが店内にない場合、または奥にあるなど防犯面から使えない場合は、近くの公共施設や公園などのトイレを案内することで対応することになっている。また、休憩場所についても、スペースの都合でイスが常設できない場合は、必要に応じて折りたたみイスを出すなどの対応でも良いことになっている。

<まちの駅になったメリット・デメリット>

- メリット・デメリットは特に無い。もともと、まちの駅になったからといって儲かるとか、そういうことは期待していたわけではない。この地域を利用する人の利便性が高まり、交流が活発化すればよい。
- また、新しいものを広げたいとも語り、「まちの駅」というお酒でもつくるかなどとヒアリング中に面白いアイデアもでてきた。こんな風に一見少し無理なのではないかと思うことでも冗談でも良いので新しいアイデアが出るとまちの駅としての自覚が生まれたり、まちの駅同士の関係が深まり市民の皆さんにも浸透していくのではないだろうか。
- 山本五十六記念館や河井継之助邸跡を目的にこの地区を訪れる人は多いが、まちの駅を有効に利用してもらっていない。まちの駅の紹介やサービスを伝えていく努力も必要であろう。



【指導・補足説明】

- 佐田酒店さんをはじめ、長岡市のまちの駅ネットワークには酒屋さんが4件と、酒造会社関連の駅が1件あります。長岡市は合併によって市内に17の蔵元を持つ地酒の町となりました。まちの駅ネットワークとしても、その特徴をぜひ活かし、長岡の魅力の一つとして発信していきたいと考えています。

(3) 入手資料

- 長岡市観光課「越後長岡観光ガイド&マップ てんこもり」
- ながおかタウンマネジメント企画運営会議 まちなか・考房「ながおか歴史・文化散策マップ」

(4) ヒアリング所感

<ヒアリング所感：吉田泰葉>

休憩場所が無いという問題はあるが、もてなしの心は十分に感じる事ができた。これが重要なことで、まちの駅の集会で「おもてなし」について講習を開くと良いのではないかと思う。まちの駅の地酒を造るというアイデアが出ていたのでそれを実行するのも面白そうだった。

また、今回、佐田酒店さんだけを単独でヒアリングしたからかもしれないが、今までの栃尾や和島のときと雰囲気違った。栃尾や和島のときは昔からの絆的なものや腰についてホッとする雰囲気があったが、佐田商店は正直だった。ヒアリングをした学生の意見も都市部である旧長岡市、その中心市街地である大手通り周辺に対する厳しい意見があった。

ネットワークを広げることとまちの駅の数ばかりを増やすことは違うのではないかという意見も出た。地域興しだから多くの方を巻き込まなくてはいけないだろうが、そのためには、地域全体を活性化するための市のバックアップも必要であろう。市のやり方に、もう少し期待したい。そうでないとまちの駅を引き受けてくれたとこ

ろが可愛そうだ。

周りの商店街仲間も次々と店をたたみ、佐田酒店の方は少し寂しそうだった。

まちの駅をやる前にやるべきことがあるのではないかと考えさせられたヒアリングだった。

そんな中でも「みんなが一緒になってやっていかなくては！」と語る佐田酒店の方に力強さを感じ、頑張っしてほしいと思った。

今回のヒアリングで、一応、本取組でのヒアリングは長岡大学を除いて終了しました。ここで、全体を通して感じた点を若干整理しておきたいと思います。

まず第一は、交流の難しさである。交流を深めるためにメーリングリストを作ることで工夫をし、それが一つのきっかけになり繋がりを深めて活動を活発にしているのかもしれないが、ヒアリングをした学生からは「実際にメールで繋がっているお店が半分と聞き、交流を持つところまではまだいかず、一方的な連絡手段として使っているだけではないか」という意見もあがった。

第二は、多くの駅長さんが受け身である点である。どこのまちの駅をまわっても感じたことだが、何から手をつけて良いかわからないというのは分かるが、もう少し自主性をもってもらいたいとも感じずにいられないのも事実だ。逆に、実際の活動を見ていると、多くのことをやられているのに、それを積極的にアピールしていないとも感じた。全国的な活動を調べても、長岡地域は先進地域で、情報を共有化することにより、活動に自信がもて、より前進できるのではないだろうか。

第三は、認知度アップと対応の仕方に関する問題である。認知度の低さは決定的な問題であろう。対応の仕方に関しては、なんとなく始めたまちの駅でも、実際にお客さんが訪ねてきたときに対応できないのは失礼であり、きちんと対応するのが義務だと思うのでまちの駅同士が集まったときにでも講習会的なものを開いたほうが良いのではないかと考えた。そうすれば実施しているお店の方等もどのようにすれば良いか理解できるし、市民センターの方も安心して活動を見守ることが出来て、より交流が深まるのではないかなと思った。

第四は、施設面の問題である。道の駅に併設されているような大規模施設では施設面は全く問題はないが、個人店舗ではそうはいかない。お互いに嫌な想いをしないためにも、施設情報も整理しておいた方が良くないだろうか。また、お店だから腰を着くような場所がないのは仕方ないが、数個のイスや外に小さなベンチを置くのも違うのでそこは何か工夫してほしいと思った（寺泊観光所はそうしていた）。可能かはわからないが、市民センターや市の施設で古くなったベンチやイス、買い換えるときに使えるが古くなって要らなくなったものがあれば、寄付しあえばコストもかからないのではないか。例えば、可能かどうかは分からないが、長岡大学の体育館の倉庫にある木のイスは学園祭のときにしか使わず、普段はカビにまみれて可愛そうなくらいである。そんなことなら予算の許す限り、寄付でもしたいものである。

【指導・補足説明：全体を通して】

- 長岡市が進めるまちの駅の取り組みは、昨年 11 月によく全 30 駅が揃ってスタートしました。まちの駅によって業種や施設、立地条件も違うため、現在も試行錯誤しながら取り組んでいます。
- 参加した施設は、全て本業の傍らまちの駅としての役割も担っています。駅長さんへは、これまで通りのお店代表としての対応に加え、地域の代表としての気持ちを加えてお客さんを迎えて欲しいとお願いしています。
- まちの駅は、始めるために費用はかかりませんが、始めたからといって急に来客が増えたり、商品が売れたりするものでもなく、参加したみなさんの気持ちで運営されています。とはいえ、継続していくためには、まちの駅としての目的の他に、楽しさや、やりがい、利益アップなど、何らかのメリットが必要だとも思っています。来客を増やし、利益を上げたいという駅、市外、県外のまちの駅と積極的に交流したいという駅など、参加したまちの駅が、その駅なりの目的を持ち、それを実現できるようなネットワークにしていけたらと考えています。
- 今後は、各まちの駅がもっと独自のサービスや取組みを行ったり、他の駅と自由に連携したりするなど、活発なネットワークに成長することを期待していますが、現状では、まちの駅の PR や駅長同士の交流など、その下地づくりとしての取組みを地道に続けていくこと大切だと考えています。

2.2.9 「まちの駅 長岡大学」

(1) 実施概要

日時：平成 20 年 1 月 17 日（木）午前 11 時 20 分から午前 11 時 50 分

場所：長岡大学 生涯学習センター

講師：長岡大学

教授 兒嶋 俊郎 氏

(2) ヒアリング内容

<「まちの駅 長岡大学」の概要>

- 長岡大学は市民の憩いの場、悠久山にある。市民プールやお城の形の郷土資料館も近く、2階のロビーでの休憩や、図書館も公開している。他に、パネル展示や資料の無料配布を行っている。

<まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- 市民センターの芳賀さんからの依頼を受けた。本学の兒嶋教授が学長の了解を経て正式に引き受けた。
- 地域に開かれた大学として、市民の方々に大学をより活発に利用していただく、よい機会だと考えた。

<まちの駅になった時期>

- 他の「まちの駅」と同様、2006年（平成18年）11月3日から実験施設としてスタートした。



<他のまちの駅との交流について>

- 活発ではない
- メールリストでの情報交換のみ

<まちの駅への来客数と動向>

- 正確にはわからない、把握していない。
- 今年度（H19）の前期（6月～7月の1ヶ月弱の期間）に東山油田のパネルを展示。チラシやインターネットなど広報活動を行い、興味を持った一般の方が（中には遠方から）来てくれて、好評だった。学内においてあるパンフレットもかなり持って行ってくれたそうである。
- 後期（年末）には、現代GPについての展示も行ったが、宣伝不足であったため、あまり反響はなかった。

<まちの駅としての活動・サービス内容>

- パンフレットの設置
- 図書館を一般の方に開放している（但し土日は休み）。一般向けの貸し出しは当面見合わせるとのこと。休日の図書館の開放は今後の課題である。
- 生涯学習センターや地域研究センターも開放されている。

<これからの活動>

- 市内で活動している人の発表の場として場所を提供していきたい。また、まちの駅の会議をあちこちにある「まちの駅」が持ち回りでやろうという試みには協力できる。
- 中越高校の写真部による写真の展示等の企画もおもしろい。理想としては年2回の企画、学生を含めた企画やイベント、外部の展示などを実施したいとのことである。
- 地域に根ざす、幅広いまちの駅の実現をしたいと考えている。

<活動する上での問題点>

- なんらかの企画で展示をするには管理の責任が出てくるため、それがネックになる。それに伴い、人手不足の問題も出てくる。
- 外部からまぎれて侵入してくる不審者の対応。
- 一般の方が利用してきた際、まちの駅（大学）周辺や長岡市を案内できる人が限られてきてしまう。（現時点で本校の案内役は兒嶋先生と語学自習室の駒村さんの2人）

- いろいろ活動していく過程で、学内で、まちの駅のイメージをどうつくっていくか、きっかけ、認識を持ってもらうことが重要とのことであった。

(註) ヒアリング所感は、本調査研究の目的の1つが「まちの駅 長岡大学」の活性化への提言であるため、後章で整理する。

第3章 まちの駅の現状と課題、および活性化への提言

本章では、「まちの駅の歴史と概要」および「ヒアリング調査結果」を受けて、その現状と課題を明らかにし、活性化策を検討する。まず、共同研究者の個人別所感を述べたあと、全員の共通認識を整理し、一般的な活性化策をまとめる。最後に、「まちの駅 長岡大学」の問題点と活性化の提言をまとめて本調査研究のまとめとした。

3.1 「まちの駅」へのヒアリング所感

<所感：吉田泰葉>

長岡市の「まちの駅」の現状は役割を果たせていないところが多かった。これは依頼をした市の計画性の面での問題と「まちの駅」に携わる人の高齢化による積極性や精力的面で欠けている点が原因の一つとして挙げられる。市民センターが「まちの駅」のネットワーク実験を始めた目的(市民センターを中心としたまちの駅による「おもてなし」のネットワーク作りと地域間の人や情報の交流を図ること)を果たすのは今のままでは難しいと感じた。それはいきなり人を集めることから始めても、住みやすいまちづくりや周囲の環境・条件が整っていないことが原因になり目的を達成することは不可能だからだ。

ヒアリングに伺った「まちの駅」は市民センター、栃尾地域5箇所、寺泊観光協会、和島地域3箇所、佐田酒店の計11箇所に加え長岡大学だった。特に栃尾地域と和島の「もてなし家」は活動も活発だった。しかしその背景には他のまちの駅とは違う地域連携の存在や立地、商売との関係が大きく影響していた。栃尾は昔ながらの細い道を残しているところや元本屋を休憩所として解放して工夫し、アルミの空き缶で工作のように帽子を作る活動が子供たちにうけている点でとても地域に根ざした取り組みがなされていた。しかし、そこには昔からの地域連携があったように思う。土台が出来ていたのだ。和島の「もてなし家」は「道の駅」としても活動しており、「まちの駅」を始める前から多くの人に知られていた。近年来客数は増加しているがそれは「まちの駅」になったからではなく長岡市との合併を機に増加したものである。「もてなし家」の山田さんは、NPO活動をしていることや様々な業務に関わっていると聞き活動に対する力強さを感じた。他のまちの駅ではそういったことはほとんど無かった。それは他のまちの駅が観光の動線上に無くただでさえ来客数が見込めない点が大い。これは各まちの駅の活動の工夫の違いや元々「まちの駅」として向いていなかったということも言えるのではないかな。何を目的に「まちの駅」を依頼したのか分からない商店等もあった。

「まちの駅」を実施するにあたって、「住みやすいまちづくり」という土台をまずはつくることと、何を重点において「まちの駅」を設置するのかを計画的に行う必要がある。それは今からでも遅くはないと思う。続けていくことが大事だと市民センターの方は語っていたが、それだけでは駄目なのだと12箇所のヒアリングを通して最終的に感じた。

半年間で多くの「まちの駅」を訪問をさせていただき、今までまったく考えたことも無い分野を勉強させてもらった。基本的な「まちの駅」の知識や他のまちの駅の現状を見ることにより全体的なものを少しでも捉えられた。長岡大学に「まちの駅」として求められていることは「専門知識を活かしたまちの駅」であると思うので人手不足の問題等もあるが、まちの駅を続けていくなれば活発にしていきたいと思った。

各まちの駅の方が私たちのために時間をつくり、相手をしていただき心から感謝をしています。この活動で学んだことを活かし学生生活並びに地域社会の活動に貢献していきたい。

<所感：大平悠史>

ゼミにおいて、テーマ選定を話し合ったときに、最初は長岡の活性化を扱おうということになり、具体的に「まちの駅」からみていこうということになりました。約半年前から活動し始め、長岡市民センターをはじめ、栃尾・寺泊観光協会・和島・長岡の佐田酒店にまちの駅のヒアリングに伺いました。そこで各まちの駅の現状や環境、各まちの駅の特徴をまとめて今回の発表にいたることができました。

まずわかったことはまちの駅の認識度がかなり低いことでした。まちの駅が設置されてからまだ歴史が浅いこともあるからかもしれませんが、道の駅と一緒にではないのか、と思われてるということも現状です。まちの駅という言葉を知っていても、どんなところか知らない人が多い。それと「まちの駅」側も、「やってみないかと誘われて何となく」、「特に工夫しているところもない」、「商売が忙しく他のまちの駅との交流ができない」など……。長岡大学にしても同様です。

ヒアリングに伺った中で私が一番印象に残っているところは栃尾でした。消防小屋で使っていたところを自分たちで改装しそこを憩いの場・休憩所として開放しているところと本屋だったところを開放して子供たちなどと一緒にアルミ缶で帽子を作るということを行っていて非常に地域住民と密着しているまちの駅ということを感じることができました（この休憩所自体は「まちの駅」ではないが）。これは地元商店街の人々の熱い熱意と工夫、協力がなければできないことだと思います。一人だけ頑張っても浮いてしまいいかなかなかうまくいかないことでしょう。まわりの協力があってこそそのまちの駅だと思います。

各まちの駅で活躍していらっしゃる方はほとんど年配でした、家庭やら仕事、体力的にもきついと思います。そこで、サポートするかたちでも私たち若者の力が加わればすごくいいと思いました。「後を継いでくれる人がいない」という意見も出たところもありました。これからの活性化につなげるには個々のまちの駅が明確な目標をもつことと、そのまわりにいる若い人のサポートだと思いました。

ヒアリングにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。「もてなし家」さんに関しては多くの資料をご用意していただけてとても感謝しております。ただ私のマナーに欠けているところがありまして申し訳ございませんでした。ソフトクリームは冗談抜きで本当においしかったです。また食べにいきたいと思います。

市民センターの近藤さん、すべてのまちの駅の同行ありがとうございました。これからもまちの駅活性化頑張ってください。

<所感：目黒加寿也>

今回まちの駅の活性化というテーマでヒアリング調査などを行ってみて感じた点は、自分が予想していた以上に課題や問題点があること、および、まちの駅を活性化しようと動いている市側と、まちの駅を受け入れた商店街との間に認識のズレが生じていることである。

これには市側が、まちの駅を受け入れた方々に対してしっかりと具体的な協力体制を整え、それを示すこと、そしてまちの駅を設置する明確な理由やメリットを示すことが大事なのではないかと思う。一方の受け入れ側としては外部からの意見や提案などだけを待つのではなく、自発的に行動を起こしたり、まちの駅になった自覚・責任を持つことが大事であると思った。そして他のまちの駅の方々との連携・協力を築いていかななくてはならないと思う。

今後、市と住民が互いに連携・協力していかななくては、まちの駅自体の必要性が薄れてゆく気がする。

<所感：梅津 亮>

今回長岡大学がまちの駅としてどうしていけばいいのか、何をすればいいのかを知るために、長岡、栃尾、和島、寺泊の各地域の「まちの駅」をヒアリング調査してきた。最終的には「市」へ何かしら提言できればと思い、そして、長岡大学のまちの駅の活性化をして、それをきっかけに他のまちの駅の活性化にもつながってほしいかなあということで活動してきた。

このヒアリングでまちの駅の現状と問題点を知ることができた。現状はまちの駅の知名度が低い、まちの駅に対する実施者の理解度が低いといった現状だ。まちの駅を実施している商店街の管理者の高齢化、まちの駅同士の交流が乏しい、まちの駅の実施計画性の無さなどが問題点となっている。

ヒアリングを行った地域の中で特に栃尾と和島地域が活動していた。栃尾地域では昔、消防小屋として使われていたところを改装し、休憩所として開放したり、昔の本屋を改装して商店街の協力のもと体験教室が開かれていた。栃尾地域は道の駅の「R290とちお」が拠点となって人が集まっているようだ。そこでイベントなどをして交流を深めているようだ。

和島地域では道の駅の「もてなし家」が拠点となって活動していた。この二つの地域の共通点は道の駅の存在だと思った。道の駅が中心となって、イベントをしたり交流していた。道の駅を知っている人は多いが、まちの駅を知っている人は少ない。やはり道の駅の存在は大きいと感じた。

最後に、今回まちの駅を調査して、長岡大学はまちの駅としてこれから何をしていけばいいのかということ、それは地域の人と情報交換をしたり長岡大学でいろんなイベントをして、地域の人に長岡大学を知ってもらい、もっと地域に開かれた存在になっていくことであると思います。

<所感：柳下直人>

長岡大学がまちの駅として今何が必要で、今後どう展開していくべきかを検討する目的で、市民センターの近藤さんの協力のもと、長岡市、栃尾、和島、寺泊の各まちの駅へのヒアリング調査を行ってきた。

そのなかで皆さんが口を揃えておっしゃっていたことは、「まちの駅」という言葉の認知度の低さであった。最初は2006年11月から施行という、単に歴史の浅さのせいで時間が解決してくれるのではないかと自分は感じていたが、問題はそこではなかった。

まちの駅同士の交流が出来ていないということ。市民センターの近藤さんがまちの駅同士の交流のために作ったメーリングリストによりメールで各まちの駅に情報が発信されているようだが、実際それで交流できているのは約半分だそうだ。メーリングリストはいいアイデアではないかと感じたが、その事実を聞くと、一方的な連絡手段にしかすぎないものになってしまっている面もあるそうだ。まちの駅として営業しているからには、もう少し積極性、自発性を持って欲しい。それに伴い、まちの駅の漠然としている方向性に何らかの道筋をつけられるのではないか。

また、まちの駅の認知度が低いのは、まちの駅として依頼された店の周りの環境もあると思われる。もともと観光地ではない地域では、遠方から来られた人への対応の仕方がわからない、などの声もあった。このことから、元々国道沿いにある「道の駅」と違い、まちの中の気づきにくいところに存在する「まちの駅」は努力、工夫が無ければ、集客は望めず、浸透していかないことを実感した。

ヒアリング調査で訪れた中で、個人的にまちの駅として積極的に活動しているなど思ったのは、栃尾地区であった。昔、消防小屋として使われていたところや、元本屋を改装し「お休み処」、「あいぼ処」という休憩所（これらは「まちの駅」ではないが、まちの駅に隣接しており、利用者から見ると一体化している）として開放し、商店街の協力のもと運営されていて、てまり作りや木工細工、パッチワーク、アルミ缶をつかった帽子作りなどさまざまな体験教室が行われている。ほとんどがまちの駅になったからといって状況は変わっていないようだが、栃尾で行われているこの努力や工夫は集客状況や他のまちの駅との交流状況は別として、地域内での交流の様子が強く感じられた。大きな変化は無くとも、お店の方の気持ちなどに良い変化があれば近藤さんもおっしゃっていたが、まさにその通りで、まちの駅を営業している方の小さな気持ちの変化があれば、もう少し活気付いていくと思っている。地域社会が崩れている中、まちの駅がその地域の人々の交流の場の中心として、根付いていってくれば、と思った。佐田酒店にヒアリング調査で訪れた際、まちの駅の酒でも作ろうかという面白いアイデアが出たが、小さなことやささいなアイデアを出していくことも大事だということ、それが今後の地域の交流の場として根付いていくためにも必要な努力、工夫でもあるのだと感じた。

最後にこれまでのヒアリング調査を振り返ると、各まちの駅を訪れた際、時間を割いてもらってにもかかわらず、失礼な態度を自分たちがとってしまったこと、マナーに欠けているということを指摘され、協力してくれた市民センターの近藤さんや先生に迷惑をおかけしてしまった事に深くお詫び申し上げたいと思った。

3.2 長岡市の「まちの駅」の活性化に向けて

(1) 長岡市の「まちの駅」の現状と課題

「まちの駅」の現状と課題は以下の5点にまとめられそうである。

① 「まちの駅」の知名度の低さと方向性の無さ

長岡市内のいくつかの「まちの駅」を巡りわかったことは、まちの駅の知名度が低いことと、まちの駅として何をしたら良いのか、多くのまちの駅が分かっていないことであった。

② 「まちの駅」同士の交流の少なさと相互理解の不足

問題点の2点目は、自分たちでは何をしたら良いのかわからないことに加えて、まちの駅同士の関係が浅いということである。これはまちの駅を実施しているところのほとんどが商売をしている関係上、集まりの予定が合わないという点も関係している。中には「集まりに参加したことが無い」というまちの駅もあり、やる気の無さを感じた。その結果、一部の地域を除いて、他のまちの駅が何をしているのかも把握できず、連携しようにもその発想が生まれてこないことになっている。

③ 実施している商店等の管理者の高齢化

住む地域が離れていること及び各人が忙しいこともあり、メール等でコミュニケーションを図ろうとしているが、今はまだ市民センターから各まちの駅への連絡手段として使われているだけであるのが実状のようである。跡継ぎがいらないこと等により、各まちの駅の駅長さんの高齢化が進んでいることも問題である。そのため、メーリングリスト参加駅も、実際は約半数にとどまっている。

④ 「まちの駅」に対する実施者の理解度不足

「頼まれたから」と気軽にまちの駅をスタートしたところがほとんどで、まちの駅の歴史や目的もあまり理解されていないのではないかと感じた。まさに「まちの駅」について取り組む前の私たちと同じだった。しかし頼んだ方にも引き受けた方にも責任はある。長岡大学も含めてそこをもう少し考えるべきだと思う。

⑤ 「まちの駅」計画実施の際の計画性の無さ

「まちの駅」として活動しようと具体的な取組を行っている商店や来客数を伸ばしているお店もあった。しかし、いずれにしても立地場所や「まちの駅」になる以前からの商売が大きく関係しており、まちの駅になったからといって来客数が大幅に増加したという結果は得られていない。

各まちの駅へヒアリングに行くと必ず問題点として挙げられたのは「まちの駅」の認知度のことだ。「まちの駅」という名前がまだ地域に浸透していない」「もっとまちの駅の存在を多くの人知ってもらえれば活性化」等の意見が多かった。現状で「まちの駅」の名前が知られていないのは事実である。しかし、私たちはむしろ自分たちの自発性の無さを棚に上げて、誰かが名前を広めてくれるのを待っていることこそが問題点なのではないかと思っている。「まちの駅」を設置するにあたり、まちをどうしたいのか、どことどういう交流をすることによって地域を活性化しようとしているのか、自分たちは何をするのか・すべきか等が伝わってこなかった。そういった点を考えて計画的にまちの駅の活動を進めるときがきているのではないか。

(2) 長岡市の「まちの駅」の活性化への提言

まちの駅の中には、今まで通りの商売や暮らしをやっていれば良いと考えているまちの駅もあった。しかし、そうではないと問題点を踏まえて思う。それでは依頼した意味が無いからだ。「まちの駅」として何をすべきなのかという自発性とやる気を持って欲しい。そうでないと市民センターの掲げている『市民センターを中心としたまちの駅による「おもてなし」のネットワーク作り、地域間の人や情報の交流を図る』という目標は達成されないと思う。各々のまちの駅の自発性が自然と「まちの駅」の知名度へと繋がっていくのではないか。

また扇屋さんのように素晴らしい伝統工芸を持っていながら跡を継ぐ人がいないのは深刻な問題であると思う。それは商店においても同じことが言える。また周辺の環境・条件が整っていなければ「まちの駅」が置かれる必要性が薄れていく気がする。まずは「まちの駅」を実施する以前にそういったところを整える必要があるのではないか。積極的に住民と市が一体にならなくてはならない。まさに、協働が必要である。

学生の間では「まちの駅」の活性化へ向けて様々な意見が出たが、特にヒアリングで訪問した栃尾地域はまちの駅として学生の間でもとても評価が高かった。その理由は昔ながらのものを活かしており、地域に根付いている感じがしたからだ。こういった各々のまちの駅の特徴を活かせるように長岡市の「まちの駅」の中心である市民センターは役割を果たさなければならぬと思う。

各まちの駅のヒアリングを通して「まちの駅」の数を増やし、時間をかければ自然と形ができるものではなく、決して地域の活性化を達成できるわけでも無いと感じた。人を集めることを考えるよりも、より住みやすい・魅力あるまちづくりの本質を検討することや市民参加とはどういうことなのか、自分たちはこの長岡市をどうしたいのか・どういうまちに住みたいのかを検討することの方が先のような。

3.3 「まちの駅 長岡大学」の活性化へ向けて

我々の母校である「長岡大学」も「まちの駅」である。学園祭に参加する学生も少ない状況で、学生が「まちの駅」を語り、活性化を提言できる立場ではないかもしれないが、「キーステーションである市民センター」と各「まちの駅」の関係同様、長岡大学でも「大学当局」と「学生」の関係が重要であろう。

長岡大学はそのホームページで「まちの駅 長岡大学」を紹介している。「まちの駅」の「のぼり」はあるが、「まちの駅」が何なのか知らない学生が多い。本調査研究活動に、研究補助金を出していただいている「現代GP」の取組も、本学の玄関やホームページのトップで紹介されているが、それがなんなのか知らないまま過ぎていく学生も多い。これらの事例には、共通の課題があるのではないか。この取組を通じて、我々が感じた問題点とそれへの対策を提言としてまとめて、本調査研究のまとめとしたい。

「まちの駅 長岡大学」の主体は、明らかに、大学と学生である、さらに市民である。それらの主体が1つになったときに、活性化が達成できるとの考えから、以下の方策を提言する。

<提言1：交流会への積極的参加の義務づけと学生への情報発信>

長岡大学内に「まちの駅」の担当者をおき、まちの駅同士での交流会や意見会にもっと積極的に参加していくべきである。さらにその情報を学生に知らせるべきである。

<提言2：教職員および学生による、「まちの駅 長岡大学」活性化協議会の設置>

<提言3：学内での「まちの駅 長岡大学」の認知と予算・人的協力体制の構築>

全国の「まちの駅」のなかには「学の駅」という位置づけのまちの駅がある。しかし、そこで考えられている活動は、公民館的で生涯学習に近いものである。長岡大学にも市民を対象とした「生涯学習センター」や行政や企業、地域社会を対象とした「地域研究センター」があるが、その活動は「まちの駅」の活動の一部ではあっても、「まちの駅 長岡大学」の活動すべてではないはずである。現在全国の大学で「まちの駅」になっているのは2校のみで、独自の道の開拓が望まれる。その意味で、教職員および学生による「まちの駅 長岡大学」の方向性、活動を議論する場をつくることが望まれる。

今回長岡大学へのヒアリングの印象は、「パネル展示はあります、（勝手に見てください、案内は誰も指示されておられません）」、「トイレはご自由に」、「図書館も見ただけならご自由に（手間のかかる貸出業務はしません）」というものであった。つまり、人員の問題、安全の問題等、できない理由が先にあって、形だけを整えることが前提となっているように感じられた。もちろん、多くの「まちの駅」が商店や行政機関やそれに準じる機関であり、常時、人がいて通常業務の中で追加的に対応できるのところとは違うが、あまりにも体制が整備されていないように感じられる。担当の方は忙しい中でも、対応はしていると思うが、全体の意識はそうではないように思われた。これで本当に「地域に開かれた大学」と言えるのだろうか。ある意味、市民からは冷たい目で見られる結果を引き起こすのではないか、心配である。

上述のように、「まちの駅 長岡大学」プロジェクトに関わっている人が少ないので、関わってくれる人を増やすべきである。市民センターでも実質は2名程度で運営している。長岡大学では1名で十分ではないか。「まちの駅」専任である必要はない。今回の研究活動においても、GP室の方に大変お世話になった。そして、学生組織を立ち上げるべきである。具体的な活動では、教職員の方の協力を仰いだり、学生ボランティアやアルバイトの協力も必要であろうが、企画立案は少人数でも十分な気がする。第1章のまちの駅の概要でも触れられていたが、成功している事例をみると意外に、やりたい人がやるというスタンスであった。それが望ましい姿ではないかもしれないが、成功の条件かもしれない。もちろん、活動資金やイベントでの施設提供、人的協力といった学校側の協力は必要不可欠であるが。

<提言4：学校施設の積極的開放と情報発信>

施設の積極的開放も検討すべきと思われる。例えば、悠久山の桜は有名であり花見の時期には多くのお客さんが訪れる。トイレ利用だけで、見張り番をするのかという批判を受けそうであるが、同じ時期に、イベントをすれば、トイレだけの人の配置にならずにすむのではないか。現在もしているが、花見時期の駐車場の一部開放も市民サービスにつながると思う。また、長岡祭りの時には、シャトルバス発着場として開放しても良いのではないか。さらに、県営プールの建設に伴って、大会時の駐車場や施設開放も検討の余地はあると思う。そういう時にこそ、「まちの駅 長岡大学」を地域に知らせるチャンスであるはずである。

「まちの駅 長岡大学」の活性化、さらには、「長岡大学」のファンを増やし、地域で認められるようになるには、いかにして周りの人を巻き込んでいくか、そして、協力してもらえるような環境をつくっていかにかかっていると思われる。つまり、「ギブ・アンド・テイク」と長岡市の総合計画のキャッチフレーズである「前より前へ」である。

謝 辞

最後に、お忙しい中、私たちのまちの駅調査に全面的に協力してくださった、ながおか市民センターの近藤芳博様、並びにヒアリング調査の際にご協力頂いた、栃尾地域の皆様、寺泊観光協会の足立久尚様、(株)早川商店の早川孝夫様、扇屋の阿部虔平様、もてなし家の山田勝様、佐田酒店の佐田晃様、長岡大学の児嶋俊郎様、ご協力有り難うございました。

また、ヒアリングの際に相手方との段取り・交渉・引率・アドバイスなど、色々にご協力して頂いた長岡大学地域活性化G P室の山田さん・葦沢さん、本当に有り難うございました。

そして、この論文を書く上でご協力して頂いた全ての方々にお礼を申し上げたいと思います。本当に有り難うございました。

参考資料 長岡市における「まちの駅」実験参加施設一覧

1 あぶらういの駅
【I-martSS給町】

車は安全運転・安全の心が基本です。オイルチェック・タイヤチェックはお任せください。車のこと、道路事情、何でも聞いてください。『あぶらういの』で楽しくドライブ、みんな帰って来ますよ。



〒940-0088
長岡市給町1-2-1
TEL/0258-32-447
FAX/0258-32-447
営業時間/7:30~19:30(月~金)
7:30~18:30(土)
8:00~17:00(日)
無休/1月1日、2日



2 ラジオの駅
【FMながおか】

長岡地域のFM放送局として、放送・イベント情報の他、広域圏や学生層にも対応しています。また、中継大塚田の放送、被災者の支援に合わせた緊急情報も提供し続けています。いつでも市民が話し出せる「ラジオの駅」を目指します。



〒940-0033
長岡市寺前白1-8-18
長岡FMビル1F
TEL/0258-39-5500
FAX/0258-39-2868
営業時間/9:00~18:00(月~金)
10:00~16:00(土)
無休/休/日曜



3 越後長岡 酒と味の駅
【美佐田酒店】

山本五十六記念館、山本記念公園、河井養之助墓所が近くにあります。皆様へ酒案内ができると思います。また、越後長岡の日本酒や調味料の取扱店と、お知らせいたします。



〒940-0067
長岡市南町1-6
TEL/0258-32-3517
FAX/0258-34-3617
営業時間/8:00~21:30
無休/休/日曜



4 長岡駅前 越後の地酒駅
【美サトウ商店】

ここ越後長岡は、17の酒蔵を持つ日本酒の都です。美味しい酒の中、文化、長岡の地のことなど、おまかせでご案内いたしますので、お気軽にお立ち寄りください。



〒940-0062
長岡市大手道1-3-15
TEL/0258-32-0402
FAX/0258-32-0436
営業時間/9:00~20:00
無休/休/不定休



5 まちの駅 越後の米穀商 高田屋
【美高田屋商店】

高田屋は長岡市で明治時代からつく米穀商です。「安心して」「おいしく」をモットーに、精米の12米の入手をお手伝いしております。お客様に喜んで頂上と上っついでに頂けるお米を厳選してお届けいたします。



〒940-1106
長岡市宮内2-8-32
TEL/050-3378-9343
FAX/0258-32-8008
営業時間/日中出から日中入まで
無休/休/日曜、祝日



6 ONE LOVE 音楽の駅
【たつまさ堂】

経典工運舎リノベーションしたセレクトショップ。店内にはアメリカ、ヨーロッパ、ジャマイカから取り寄った良一物一単がいっぱい。店主は生まれながら長岡のレゲエ好きなおじいさん。ローカルな遊び手なら僕に聞いてください!



〒940-0071
長岡市表町2-2-18 中島ビル5F
TEL/0258-31-4404
FAX/0258-31-4404
営業時間/12:00~21:00
無休/休/元旦



7 まちの駅 おまつい広場

【トアア美】

国産の高級和食器の宝庫、神仏具、お香、ローソク、お祭り用品等、品揃え豊富です。文房、名産家内や仏壇、墓石、富嶽のご相談等、お気軽にお立ち寄りください。



〒940-2101
長岡市赤井町151-3
TEL/0258-28-1930
FAX/0258-21-3830
営業時間/9:00~19:00
案内係/元田のみ



8 まちの駅 情報てんこもり

【長岡観光案内所】

長岡駅2階出口を出た正面に位置し、新長岡10地区の観光情報、イベント情報を旅行客やお訪い客に提供しています。長岡の街の仕立としてぜひお立ち寄りください。



〒940-0061
長岡市城内町2-794-4
TEL/0258-36-3520
FAX/0258-36-3520
営業時間/9:30~18:30
案内係/写中眞洋



9 まちの駅 長岡大学

【長岡大学】

長岡大学は市民の憩いの場、憩い山にあります。作楽プールやお城の形の緑土資料館も近く、散歩の道にもお立ち寄りください。2階のロビーでの休憩や、図書館の利用も大歓迎です。



〒940-0828
長岡市赤井町80-8
TEL/0258-39-1600
FAX/0258-33-8792
営業時間/9:00~16:30
案内係/土塚、日曜、飯田、入江



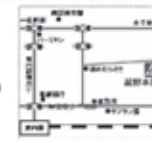
10 まちの駅 セピア色のまち 摂田屋 星野本店

【美風野本店】

弘化3年(1846)より、酒田等に産き継ぐ伝統醸造元。蔵の酒を長年利用したテーブル・イスなど、休憩できる場所を用意しました。メーカーならではの商品を取り揃えておりますので、随分お立ち寄りください。



〒940-1105
長岡市摂田屋2-10-30
TEL/0258-33-1530
FAX/0258-35-8226
営業時間/8:30~17:00
案内係/坂2-坂4土塚、日曜、飯田



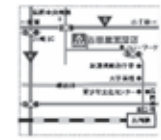
11 まめまめの駅

【吉田屋豆腐店】

人もお母もママに集まる駅。一月すると料亭のような高級な建物、まめまめ駅！早くから開いているので散歩のついでにどうぞお立ち寄りください。国産大豆100%の昔ながらの手作りとうろこごま味噌あり！



〒940-0861
長岡市川崎町2222-2
TEL/0258-32-1547
FAX/0258-32-1607
営業時間/6:00~19:00
案内係/日曜、飯田



12 酒と人 ふれあいの駅

【いわみや】

長岡市内の北の玄関、中之島、御溝川、対岸信川に囲まれ、田舎風情緒がな人情あふれる地域で酒造りを営んでおります。大口仁人さんの発酵で作られた全国でも珍しい「ワイン風のりんご酒」も当地の自産です。



〒954-0124
長岡市中2条215-1
TEL/0258-66-2076
FAX/0258-66-8055
営業時間/8:30~19:00
案内係/写中眞洋



13 手作りの駅
【美ノ里ムラ岩塚】

赤丹の里、長岡市（石見郡）で地元の新穀等を使って、手作りのお菓子を作っています。四季折々のお菓物がたくさんございます。スイーツの満腹や味覚満。梅干、梅干エキスなど大変好評です。



〒949-5414
長岡市稲荷2191-9
TEL/0258-92-6477
FAX/0258-92-5105
営業時間/7:30-19:30(月-金)
7:30-18:30(土)
8:00-17:00(日)
開店祝い/1月1日、2日



14 朝日郷 酒と食と文化の駅
【ひねりもち総本舗】

自然に育まれた朝日郷。「酒文化」「食文化」を育て、伝える駅です。「そば朝日郷」で総本舗そばを産へたり、「越前陶芸工房」でオリジナル酒器も作れます。



〒949-5412
長岡市朝日554-3
TEL/0258-92-6070
FAX/0258-92-6192
営業時間/8:30-17:00
(土曜・日・11:00-14:00)
開店祝い/元旦のみ



15 まちの駅 花みずき温泉 旬食・ゆ处・宿 喜芳

当駅は、長岡市の北西（石見郡）に位置し、奥山連綿の雄谷が望める自然豊かな環境に位置しています。毎日の新鮮を使用したお料理と天然自噴温泉が楽しめることができます。



〒940-2314
長岡市上杉4964
TEL/0258-42-4126
FAX/0258-42-4226
営業時間/10:00-22:00
開店祝い/年中無休



16 みしま地酒の駅
【美すみよし醸造店】

みしま川と川原のいし酒蔵です。当店のオリジナル「みしまこま」は、やや早口だがお飲みのあるお酒です。他にも地元産の雑穀（苧殻・早稲・徳川丸）の醸造を取り扱っています。お気軽にお立ち寄りください。



〒940-2306
長岡市稲荷町467
TEL/0258-42-2416
FAX/0258-42-4443
営業時間/7:00-20:00
開店祝い/元旦のみ



21 おみそ屋の駅
【美早川商店(てまり味噌)】

原料和歌山より、味噌として産出を始め、その後地元の大目とお米を使って味噌づくりをするようになりました。「てまり味噌」の名称は、夜更さんがお米たちと手まりで遊ぶ姿からつけました。



〒949-4525
長岡市島崎4687
TEL/0258-74-2017
FAX/0258-74-2894
営業時間/10:00-19:00
開店祝い/不定休



22 まちの駅 もてなし家
【道の駅良寛の里わしま内】

道の駅良寛の里わしまの「もてなし家」では、地域の特産品や地元産野菜の販売、食事や夜更の提供、体験教室やコンサート、美術品展示会の開催、地域情報の案内等、地域の活性化活動を行っています。



〒949-4525
長岡市島崎5713-2
TEL/0258-41-8110
FAX/0258-41-8112
営業時間/10:00-17:00
開店祝い/月曜(祝日の場合は休日)



23 **まちの駅 寺泊**
【寺泊観光協会】

島の市街通りは、いつも新鮮な島の幸が店内にいっぱいあり、イキの良さと
安さで大好評です。また、幸の一本道程を65分で結ぶ新道高速船「あいらず」
が無料し、世帯の神のバツが人気です。



〒940-2502
長岡市寺泊大町
TEL/0258-75-3363
FAX/0258-75-5126
営業時間/8:30~17:00
案内所/年中無休



24 **まちの駅 栃尾観光協会**
【道の駅290とちお内】

道の駅「1290とちお」館内で地域の観光や各種イベント、道路情報等の
案内を行っています。また、館内には無料の休憩コーナー、栃尾土産品の販売、
レストラン等の施設も充実。どうぞ気軽に立ち寄りください。



〒940-0233
長岡市栃尾東1764
TEL/0258-51-1195
FAX/0258-51-1190
営業時間/10:00~18:00
案内所/年中無休



25 **日本茶の駅**
【広野茶店】

日本茶アドバイザーがいるお店です。毎日変わる、知らなかった「茶のこと
ね」や当店のオリジナルも楽しみください。日本でも珍しい100
種類も揃っています！



〒940-0227
長岡市谷内1-1-17
TEL/0258-52-2284
FAX/0258-52-2284
営業時間/8:00~19:00
案内所/不定休



26 **時の音駅**
【アジナ時計店】

時計（腕時計）のまちにご案内します。
基本各品揃って館内からお気軽にお立ち寄りください。



〒940-0227
長岡市谷内2-1-27
TEL/0258-52-2529
FAX/0258-52-9783
営業時間/8:30~19:30
案内所/不定休



27 **とちお靴の駅**
【山甲・靴・スポーツ店】

水と緑と人の街「栃尾」。昔ながらの産物の産地であり、自然にあふれ、人情
味のある人々。一度お訪ねください。栃尾へ、きっとまた来ていただくの
が楽しみです。栃尾にお越しの際は、年中無休「靴の駅山甲」へお寄りくださいませ。



〒940-0227
長岡市谷内2-4-2
TEL/0258-52-2542
FAX/0258-52-2694
営業時間/8:30~19:00
案内所/元旦のみ



28 **まちの駅 与板刃物工芸館**
【与板刃物工芸館】

私たちは職人集団なので、使い手と密着して、その人の本当に求めるものを
オーダーメイドでお作りします。趣味等の手仕事についてのアドバイスも
します。いつでもご相談ください。



〒940-2402
長岡市与板町南1616-15
TEL/0258-72-2619
FAX/0258-72-2711
営業時間/9:00~17:00(日曜)
案内所/月曜~土曜



出典) 長岡大学以外

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/s-center/machinoeki/machinoeki-jikken.htm>

長岡大学

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/s-center/npo/machinoeki-jikken.htm>